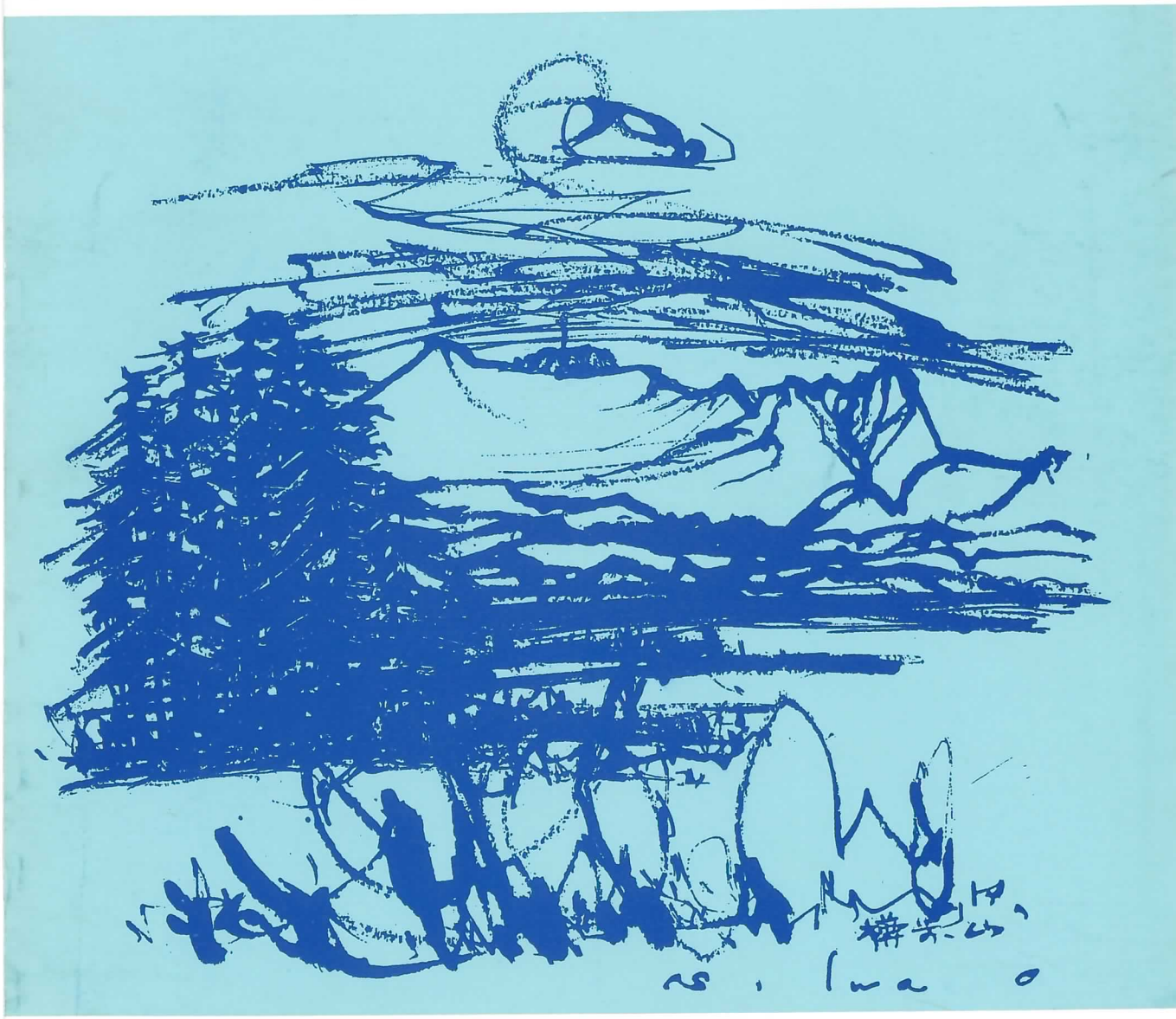
豊かな心と確かな力をはぐくむ造形学習を

第45回 全道造形教育研究大会

いしかり'95千歳大会

研究集録



石狩造形教育連盟

第45回 全道造形教育研究大会

いしかり'95千歳大会

北海道造形教育連盟研究主題

自らの心をより豊かに拓く造形学習のあり方

＝一人ひとりの造形的表現活動の喜びを実感するために＝

いしかり'95千歳大会研究主題

豊かな心と確かな力をはぐくむ造形学習を

平成7年7月28日(金)・29日(土)

千歳市立向陽台小学校
千歳市立向陽台中学校

主　催　北海道造形教育連盟・石狩管内教育研究会図工美術部会・千歳市教育振興会
主　管　石狩造形教育連盟
後　援　北海道教育委員会・石狩管内教育研究会・石狩教育研修センター
石狩教育研究所・千歳市教育委員会・北海道国公立幼稚園研究会
北海道私立幼稚園協会・北海道私立幼稚園協会石狩支部
千歳市私立幼稚園連合会・北海道高等学校文化連盟・千歳市ＰＴＡ連合会

45 CHI TOSE

目　次

石狩大会集録を発刊するにあたって …… 1
大会日程 …… 2
記念講演・アトラクション …… 3
チャレンジ工房 …… 4
会場案内図 …… 5
大会役員・運営委員 …… 6
いしかり'96千歳大会研究主題について …… 8
分科会構成一覧 …… 10
公開授業一覧 …… 12
分科会記録 …… 13
　幼稚園・年中分科会 …… 14
　幼稚園・年長分科会 …… 18
　小学校・低学年Ａ分科会 …… 22
　小学校・低学年Ｂ分科会 …… 26
　小学校・中学年Ａ分科会 …… 30
　小学校・中学年Ｂ分科会 …… 34
　小学校・高学年Ａ分科会 …… 38
　小学校・高学年Ｂ分科会 …… 42
　学年合同授業観察記録 …… 46
　中学校・絵画彫刻分科会 …… 48
　中学校・デザイン分科会 …… 52
　中学校・工芸分科会 …… 56
　高等学校分科会 …… 60
千歳大会を終えて …… 62

石狩大会集録を発刊するにあたって

第45回全道造形教育研究大会千歳大会
大会運営委員長　**和　田　　弘**

石狩大会集録を発刊するにあたって、ご挨拶申し上げます。

平成７年７月28・29日の両日、千歳市立向陽台小学校・千歳市立向陽台中学校を会場に、第45回全道造形教育研究大会・いしかり95千歳大会が無事終了し、ここに大会集録を発刊できることを大変うれしく思います。

「豊かな心と確かな力をはぐくむ造形学習を」を大会主題とし、遠くは東京から、そして全道各地から多数のかたがたのご参加をいただき、大会成功のためにご支援・ご協力いただきましたことを厚くお礼申し上げます。

今大会は石狩では20年ぶりのことでしたので、当初、とまどいがありましたが石狩管内教育研究会図工・美術部会の日頃の活動により結束して準備・運営にあたることができました。

公開授業は幼稚園が２、小学校が学年合同授業を含めて７、中学校が３の合計12でした。たいへん暑い中での授業参観、その後、各分科会での熱心な研究討議での大切なご指摘や暖かいご助言を有り難うございました。今後の石狩の図工・美術教育の充実・発展の糧とさせていただきます。

大会２日めの砂場三郎先生の記念講演は開始時にスライドのトラブルを起こし、砂場先生はじめ参会者の皆様にたいへんご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。先生の豊富な実践資料のスライドを利用してのご講演はたいへん感銘を与えてくれました。

歓迎アトラクションの千歳市立北栄小学校スクールバンドは参会者の心をなごませ、さわやかな開会式を始めることができました。

最後になりましたが、北海道教育委員会、千歳市教育委員会、石狩教育研修センターをはじめご支援ご協力いただいた石狩管内小中学校長、会場校教職員・ＰＴＡ、関係幼稚園・高校、協賛各社、さらに、宮川誠一大会実行委員長はじめ大会関係教職員に深く感謝申し上げ、併せて、次期第46回札幌大会のご成功を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

大会日程

大会第1日目　7月28日(金)

8:30	9:30	10:20	10:45	11:40	12:20	13:10	13:25	16:10	18:30	20:30
受付	公開授業（小・幼、向陽台小学校 中　向陽台中学校）	移動	歓迎セレモニー 開会式（向陽台小学校）	昼食休憩	学年合同授業（向陽台小学校）	移動	分科会（向陽台小学校）	移動 市内観光（さけのふるさと館）	歓迎レセプション（キリンガーデン）	

大会第2日目　7月29日(土)

8:30	9:00	10:20	10:30	11:50	12:00	12:20
受付	チャレンジ工房 ネットワーク部会（向陽台小学校）	移動	記念講演（向陽台小学校）	休憩	閉会式（向陽台小学校）	

開会式次第 ―――― 進行　千歳大会運営副委員長　関　建治

☆ 歓迎セレモニー	千歳市立北栄小学校スクールバンド	
1．開会のことば	千歳大会実行委員長	宮川誠一
2．挨拶	千歳大会運営委員長	和田弘
	北海道造形教育連盟委員長	船着昭弘
3．祝辞	北海道教育庁石狩教育局長	高橋茂様
	千歳市教育委員会教育長	佐藤利雄様
4．来賓紹介		
5．研究概要説明	北海道造形教育連盟研究部長	菅原清貴
	千歳大会研究部長	伊藤光悦
	千歳市学校課題発表研究部長	松島斉
6．閉会のことば	千歳大会実行委員長	宮川誠一
※ 連絡事項		

閉会式次第 ―――― 進行　千歳大会運営副委員長　本庄勝弘

1．開会のことば	千歳大会実行委員長	宮川誠一
2．挨拶	北海道造形教育連盟委員長	船着昭弘
	千歳市立向陽台小学校長	見藤毅
3．連盟旗引継ぎ	千歳市 ⟶ 札幌市	
4．次期開催地代表挨拶	札幌造形教育連盟委員長	伊藤善彬
5．閉会のことば	千歳大会実行委員長	宮川誠一
※ 連絡事項		

記念講演次第 ―――― 進行　千歳大会事業部長　藤木邦啓

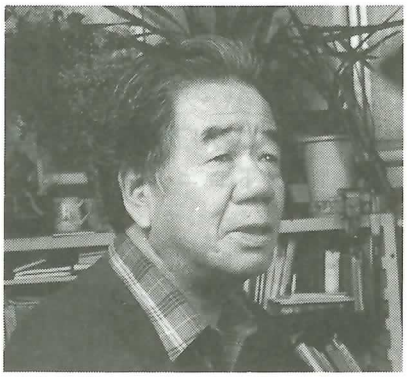
1．開会のことば	千歳大会事務局長	吉田英夫
2．講師紹介	千歳大会運営副委員長	池端外博
3．講演		
4．謝辞	千歳大会運営副委員長	福田靖之
5．閉会のことば	千歳大会事務局長	吉田英夫

記　念　講　演

「夢と喜びの広がる造形学習」

～造形の要素と教材を見なおす～

講師 砂 場 三 郎 氏



〈講師略歴〉

1926年　石川県に生まれる
1950年　金沢大学教育学部卒業
1951年　東京都公立小学校図工専科教員
1986年　東京都板橋区立成増小学校を最後にご退職
1987年　帝京大教育学科非常勤講師
1989年　竹早教員養成所非常勤講師
1990年　作家活動に専念
　・二紀会会員
　・日本美術家連盟会員

歓迎アトラクション

★出　演
千歳市立北栄小学校
　　スクールバンド　53名
★指揮者
塚　本　英　治　先生
★会　場
千歳大会全体会場
（千歳市立向陽台小学校 講堂）
★日　程
平成７年７月28日(金)10：45～

昭和55年校舎改築を記念して結成され、今年で15年になります。過去500名以上のバンド部がこのバンドで音楽の楽しさを体得し、巣立っております。

千歳市は飛行場の騒音が絶えない街ですが、その中から美しい音楽をと、部員一同頑張って練習しております。入学式・卒業式・運動会・学芸会・全校集会など学校行事を中心として活躍しております。

過去３回、北海道吹奏楽コンクール最優秀校となり、長野・神戸・千葉で行われた全国大会に出場した経験をもっております。

どうぞ、素晴らしい演奏をお楽しみ下さい。

45 CHI TOSE

挑戦してみませんか

チャレンジ工房

アクセサリー工房

銅版や銅線を曲げたり、ひねったり、金槌でたたいたり、延ばしたりして、素材のもついろいろな表情を生かした、楽しい手づくりアクセサリーを創ってみましょう。

アニメ工房

ANIMATIONという言葉はANIMATE「活気ある・生命のある・動いている」が語源となっています。生命のないものに生命を吹き込むというこの言葉は何か教育にも深い関係があるように思えます。

ここではプロや生徒の作った作品の上映の他、機材の紹介や使い方等、さまざまな方向性を示します。

ペーパー工房

「ペーパー工房」と名付けましたが、紙の他に空瓶など身近な材料を使って、「おもちゃ」を作ります。

こどもが大好きな音のでるおもちゃ（さかさま風鈴と名付けました）を作りたいと思います。

優しい音色の風鈴を作って涼しい気分に浸りませんか。

版画印刷工房

一学期に実践した板紙凸版画のなかから数点を、実際に参加者の皆さんに刷っていただきます。

さらに簡易リトグラフの作成手順を実際に体験していただき、造形学習における可能性を追求していただきます。

マルチメディア工房

きたるべき21世紀に向け、教育とマルチメディアの関わりは一層深いものになっていくことはまちがいない。そんなことを耳にして気にはなっていても、とっつくチャンスがない教師が多いのでは。

この工房では、札幌エレクトロニクスセンターから、インターネットを通じて全世界に子供たちの絵の展覧会をする！ことを提案しています。

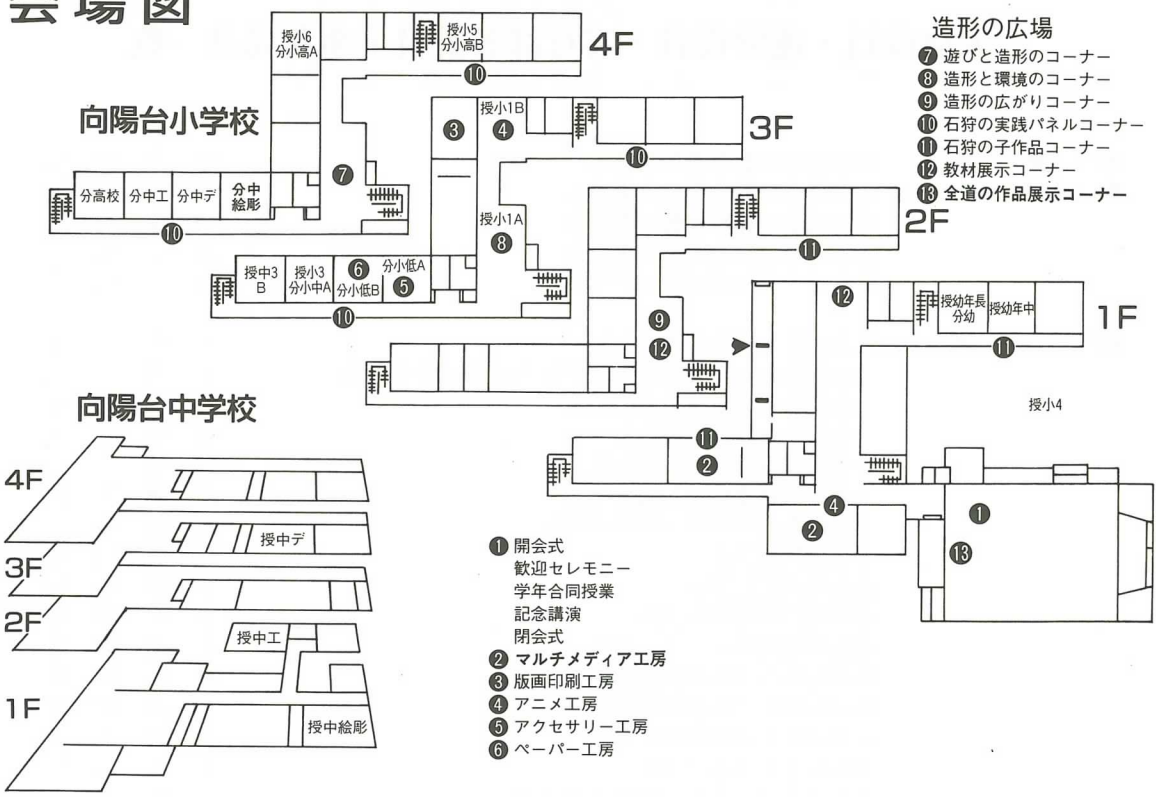
このことに、「？」と思う人、必ず「！」と解答を得るはず。千歳マルチメディア情報センターの協力で、実際にインターネットを通じて世界のホームページを見ることができます。

その他、CD-ROM体験コーナー、コンピューターグラフィック体験コーナーなど、10台のコンピューターとハイパーなスタッフがあなたをお待ちしています。

造形の広場

「遊びと造形のコーナー」……遊びの楽しさを暮らしのなかに
「造形と環境のコーナー」……環境教育と造形の接点をさぐる
「造形の広がりコーナー」……造形学習の広がりの可能性
「石狩の実践パネルコーナー」……石狩の風土に根ざし、石狩の人々の生き方に
「石狩の子の作品コーナー」……触れ、こどもの喜び溢れる作品を

会場図



市内案内図

水と緑のまち さけのふるさと ちとせへようこそ

レセプションのご案内

28日 18:30～
キリンガーデン
会費 4,000円

市内観光のご案内

28日 16:15向陽台小より
バスが出ます。

「さけのふるさと館」

千歳川の川底が見える淡
水魚の水族館
入館料は 640円

大会役員・運営役員・実行部各委員・事務局員一覧

大会長	北海道造形教育連盟委員長	船着昭弘
副大会長	北海道造形教育連盟副委員長	小杉信雄
	北海道造形教育連盟副委員長	伊藤英明
	北海道造形教育連盟副委員長	鍋谷尊之
	北海道造形教育連盟副委員長	奥野郁夫
顧問	北海道教育庁石狩教育局長	高橋茂
	北海道教育庁石狩教育局義務教育指導班指導主事	上田充
	千歳市教育委員会教育委員長	島倉充平
	千歳市教育委員会教育長	佐藤利雄
	千歳市教育委員会教育部長	神藤徹
	千歳市教育委員会教育部次長	斉藤英隆
	千歳市教育委員会学校教育課長	渡部徹夫
	千歳市校長会長	佐藤哲朗
	石狩管内校長会長	小椋英史
	石狩管内教育研究会長	若原勝利
	石狩教育研修センター所長	十河直晧
	北海道高等学校文化連盟会長	藤枝正道
	北海道国公立幼稚園研究会長	杉淵昭吾
	北海道私立幼稚園協会長	大林宏文
	千歳市ＰＴＡ連合会長	古川昌俊
	千歳市立向陽台小学校ＰＴＡ会長	川村安広
	北海道造形教育連盟顧問	高橋栄吉
	北海道造形教育連盟顧問	伊藤恵
	北海道造形教育連盟顧問	種市誠次郎
	北海道造形教育連盟顧問	森川昭夫
	北海道造形教育連盟顧問	松島輝男
	北海道造形教育連盟顧問	金井秀男
	北海道造形教育連盟顧問	鹿嶋健
	石狩造形教育連盟顧問	三上晤
	石狩造形教育連盟顧問	巌信栄
	石狩造形教育連盟顧問	谷村宏巳
	石狩造形教育連盟顧問	奈良孝秋

運営委員長	和田弘	(恵庭市立恵庭中学校長)
運営副委員長	工藤文夫	(千教振会長、千歳市立千歳中学校長)
	見藤毅	(会場校小学校長、千歳市立向陽台小学校長)
	松浦武光	(会場校中学校長、千歳市立向陽台中学校長)
	関建治	(千歳市立北陽小学校長)
	池端外博	(石狩町立南線小学校長)
	福田靖之	(江別市立野幌小学校長)
	本庄勝弘	(当別町立蕨岱小学校長)
	柴井義雄	(当別町立青山中央小中学校長)
	関寛	(千歳市私立幼稚園連合会長、千歳市くるみ幼稚園長)
	横山和郎	(道立千歳北陽高等学校)
	桑田正博	(石教研図美部長、広島町立東部中学校)

運営委員	田中千代	(千歳市わかば幼稚園長)
	横田清子	(千歳市メリー幼稚園長)
	梅原久雄	(千歳市つくし幼稚園副園長)
	菊地俊弘	(石狩町立八幡小学校校長)
	丸子武	(千歳市立北栄小学校教頭)
	今川勲	(千歳市立祝梅小学校教頭)
	計良嘉典	(千歳市立向陽台小学校教頭)
	伊藤和幸	(千歳市立北陽小学校教頭)
	阿部桂三	(千歳市立青葉中学校教頭)
	佐藤侃	(千歳市立向陽台中学校教頭)
	岩間弘光	(恵庭市立恵北中学校教頭)
	竹内督人	(浜益村立浜益中学校教頭)
	野原嘉人	(広島町立西の里小学校教頭)
	野澤紀義	(当別町立当別中学校教頭)
	瀬尾広志	(石教研図美部会事務局長、石狩町立花川北中学校)
大会実行委員長	宮川誠一	(千歳市立東千歳中学校長)
大会実行副委員長	林憲一	(千歳市立信濃小学校教頭)
実行部委員	木谷史郎	(千歳市立桜木小学校教頭)
	堂下由紀子	(江別市江別第二小学校)
	雨海亜美	(恵庭市立恵み野中学校)
	清野宰	(広島町立広葉中学校)
	宮武輝久	(江別市立大麻中学校)
	田中勝治	(千歳市立向陽台中学校)
	天谷道子	(厚田村立聚富中学校)
	佐藤竹晴	(広島町立大曲小学校)
	綱淵敏幸	(千歳市立祝梅小学校)
	阿部恵	(千歳市立向陽台小学校)
	池浦公美	(千歳市立向陽台小学校)
	遠田悦子	(千歳市立信濃小学校)
事務局長	吉田英夫	(千歳市立千歳中学校教頭)
事務次長	奈良昌美	(千歳市立千葉中学校)
事務局員	島田茂	(千歳市立信濃小学校)
	本田章	(江別市立江陽中学校)
	川名義美	(石狩町立花川北中学校)
	墓田充泰	(当別町立西当別中学校)
	陰山千文	(千歳市立真町中学校)
	小田島裕美	(千歳市立北斗中学校)
研究部長	伊藤光悦	(恵庭市立柏陽中学校)
研究副部長	山崎正明	(千歳市立向陽台中学校)
事業部長	藤木邦啓	(千歳市立北陽小学校)
事業副部長	村山和彦	(千歳市立信濃小学校)
広報部長	田中嘉	(江別市立大麻東中学校)
広報副部長	岩田ひとみ	(江別市立中央中学校)
庶務部長	安藤信行	(江別市立中央小学校)
庶務副部長	住友俊郎	(恵庭市立恵庭小学校)

いしかり'95千歳大会研究主題について

研究主題『豊かな心と確かな力を育む造形学習を』

～研究主題と研究の進め形をふりかえって～

石造連研究部

◆はじめに

今大会の主題を決めるにあたっては、我々の日常的な研究組織である石教研図工美術部会で積み重ねてきた研究内容（『指導過程のあり方』技法指導、題材の開発等の研究）を、造形連盟の新たなテーマから見つめ直し、次の実践の方向を見い出していくのをねらいとした。これを分岐点に石狩の図工美術の研究は内容も組織もさらに活性化し新しい時代に入る。若い実践者が育ち、先輩が内容を深め、全道の仲間が多くの貴重な言葉を残していってくれた。その確かな発展の手応えを糧に我々は新たな視点をもってスタートを切る。そこで今大会に向けて我々がこだわった研究の進め方と主題について反省し、今後の大会への参考材料としたい。

■共同研究としての造形大会を！

今後の美術教育に最も必要なものは何か。それは情熱をもって取り組む美術教師そのものである。困難な面は多々あったが早めに管内の授業者、提言者をに決め、４度の授業研とさらにその倍の実践交流を行った。助言者、司会者等分科会構成者をチームとし、授業案や提言内容の検討と共通理解を行い、どの部分を見ても大会テーマが垣間見えるようにした。その交流の中で確実に若い世代が台頭してきたことが最大の財産であり、大会の意義と思う。

■ネットワークとの連携でより広く！

ネットワーク構想を生かし他管の研究組織と関わりを持とうとした。札造連の研究会に参加（２回）及び石狩の実践交流会に札幌から主要なメンバーが参加して多大な助言を頂き研究内容が一気に深まった。他管の提言者との共同研究は一部ではかなりの連携が見られたが、全体としては提言者の決定が遅く手が回らなかったのが実態で、各提言者には大変苦労をお掛けしたがそれぞれに大会主題に沿った貴重な提言をしていただき感謝している。他管提言者の決定が組織的にもっと早ければネットワーク構想はさらに深まると思われる。

■教科性の出る発表を…ビデオ提言等

研究内容にのみ主題が顔を出すのではなく、発表や運営そのものに教科性が出る事を目指した。それが子供達を導く教師自身の感性や力量を高めることにつながるからである。分科会の提言をビデオ提言とし、日頃の実践と密接につながったコンパクトな提言を目指した。さらにそれら提言ビデオを編集し直し『石狩の造形学習95』として開会式の映像による基調提言をした。残念ながら予定の時間が削られ分科会に入る前に十分に意図するところを理解されず、（例えば基礎基本を技法上の基礎基本としてとらえている参加者が予想以上に多かった）残念であった。映像による発表は今後も続けていって欲しいし、何よりも大会運営そのものに教科性がにじみ出る努力をしてほしいと思う。

■教科の危機意識、よりアカデミックに！

基礎基本にこだわり、造形教育が目指す子供像を鮮明にすればするほど造形学習が一部の絵の上手な子供に必要な教科なのではなく、全ての子供に必要な教科であるとの認識が高まる。個性化とは個性的な人材をスペシャリストとして世に送り出すのではなく、全ての子供に内在

する個性を豊かに引き出し、それを確かな力として高める教科だからこそ時数が狭められ専門化していくことに危機感を持つのである。教科としての教育要素と子供像を明確にし、教科の存在をより鮮明にアピールすることに我々のこだわりがあった。

■今後に残された課題

1．基礎・基本を探る！

各分科会の話し合いの争点を辿っていけば基礎基本のとらえに突き当たるものが数多くある。例えばイメージを膨らませるために作り方をきちんと教える、否、それは逆に教師の思いに追随させて画一化を生むという論議である。今後益々個性重視の傾向の中で、造形教育だけにとどまらず教育全体の課題として論議が増すことだろう。我々が提示した基礎基本は技法だけにとどまらず『より人間的な深さの段階を持った基礎基本』である。ある技法を教えることによって子供の作品が画一化するのであればその場合の基礎基本は単層的で狭い。その技法の高みをスタートラインとしてより表現が多彩に深くなっていくことを目指すのが我々が考えるところの基礎基本である。美術を通して何を身に付けさせるかが根底にある。

2．題材、素材についての見直しを！

題材、素材に関わる論議が数多くなされた。『どのような題材をどのように与えるか』は造形学習の根本の命題だが新しい教育観の中でさらに見直しが必要となる。既成素材よりは地域素材という観点がある。確かに地域素材、手作り素材の方が遙かに思いが込められ教育要素が多いがそれも与え方次第、既成素材も構成の仕方によっては多くを学ぶ教材となる。都会に地域素材が無く、過疎の地に文化的刺激が無いという嘆き。しかし何気ない物も光の当て方一つで人の心を動かす作品に変わるのが美術本来の姿である。人間の関わり方一つで素材が変わる。教師の感性が出発点になる。

3．支援の姿勢が造形を決める！

『指導から支援へ』を大きく打ち出した。しかし意見交流の中の教師のスタンスは大きな揺れがある。子供の創造性を過大評価し好きなようにさせて出来上がったもの全てに価値をくっつけていては子供は育つまい。逆に全てを与え枠を作り、狭い道を辿らせるだけでは個性は開化せずどちらも自己満足に終わる。子供の造形行為に寄り添い共に苦労し共感しながら多くの選択の道を示し、子供が主体者として多くの決定を重ね自分のゴールに辿り着く。その場合の支援者は造形に対する幅広い知識と感覚、何よりも深い人間観を持たなければならぬと思う。そこにこれらの研究の意味がある。

4．教科性が方向を示す！

新しい教育観、目指す子供像を考えた時、造形行為の中に数多くの要素が見える事が分かる。造形教育の古くて新しい課題が今教育全体の中で課題になりつつある。そもそも美術は人間の根源的な営みであり、時代と共に様々な価値観をもって今に至っている。美術においてこれが良くてこれが間違いだという視点は無い。部分にこだわりつつ全体を把握する、変化と統一、バランス感覚それら全ての美術的なものの見方は今の人間社会に一番求められている視点でもある。造形教育の様々な論議もこの美術的見方に沿って深めれば良い。子供達を制作者として位置付け、その視点から見直したのが今回のテーマであったことを記したい。

（文責 伊藤光悦）

分科会構成

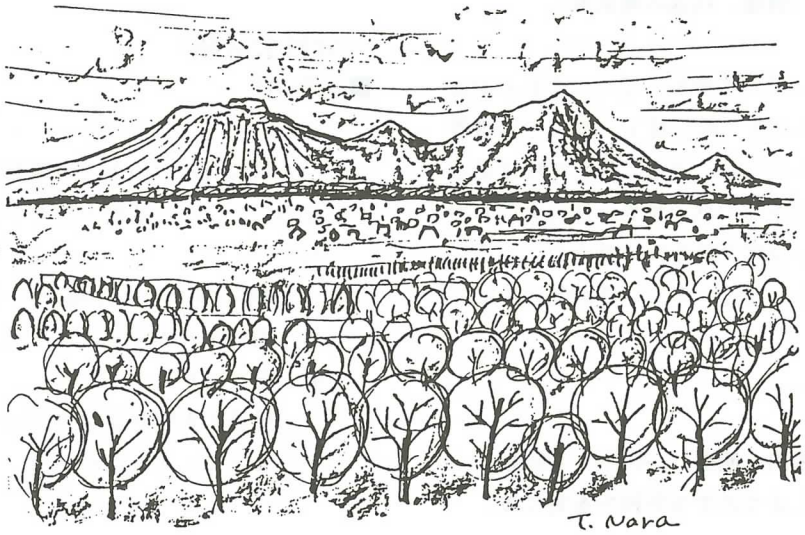
校種	領域	学年	授業者	提言者		助言者
幼稚園	表現	年中	玉木美香 本田美智子 千歳わかば幼稚園教諭	古川　明美 千歳メリー幼稚園教諭	吉田耕一郎 きくすいもとまち幼稚園教諭	奈良　孝秋 千歳市教育委員会
	表現	年長	相坂いずみ 馬越脇由香 千歳わかば幼稚園教諭	森　美由紀 ふくいの幼稚園教諭	山下　清江 函館市立松風幼稚園教諭	青山　清輝 空知美術教育研究会顧問
小学校	造形遊び	小低A	吉田かおり 千歳市立向陽台小学校教諭	菅原　治子 江別市立野幌若葉小学校教諭	和田　浩司 幕別町立中里小学校教諭	本庄　勝弘 当別町立蕨岱小学校長
	つくりたいものをつくる	小低B	米積　由佳 千歳市立祝梅小学校教諭	濱野三喜男 恵庭市立和光小学校教諭	松浦　恵子 帯広市立明星小学校教諭	林　憲一 千歳市立信濃小学校教頭
	絵にあらわす	小中A	古林　史子 千歳市立信濃小学校教諭	細川　道子 石狩町立南線小学校教諭	内山　博之 釧路教大付属小学校教諭	池端　外博 石狩町立南線小学校長
	つくりたいものをつくる	小中B	山田　陽子 千歳市立桜木小学校教諭	竹津　昇 江別市立大麻東小学校教諭	柏尾　和市 中標津町立若竹小学校教諭	福田　靖之 江別市立野幌小学校長
	つくりたいものをつくる	小高B	村田　勝巳 千歳市立向陽台小学校教諭	池田　元治 江別市立大麻西小学校教諭	添田　好美 北見市立緑小学校教諭	柴井　義雄 当別町立青山中央小中学校長
	絵にあらわす	小高A	平山　一弥 千歳市立北陽小学校教諭	蓑島　裕二 江別市立江別第三小学校教諭	野島　操 増毛町立別苅小学校教諭	関　建治 千歳市立北陽小学校長
中学校	絵画彫刻	全	山崎　正明 千歳市立向陽台中学校教諭	野口　裕司 石狩町立石狩中学校教諭	佐竹　秀行 苫小牧市立東中学校教諭	宮川　誠一 千歳市立東千歳中学校長
	デザイン	全	山田　浩人 千歳市立青葉中学校教諭	宮武　輝久 江別市立大麻中学校教諭	伊藤　尚 札幌市立米里中学校教諭	上田　充 石狩教育局指導主事
	工芸	全	浜口　秀樹 千歳市立千歳中学校教諭	松尾もと子 江別市立江別第一中学校教諭	矢元　政行 室蘭市立鵜ケ崎中学校教諭	吉田　英夫 千歳市立千歳中学校教頭
高校	造形	全		垂石　幸男 道立千歳高等学校教諭		香西富士夫 札幌市立札幌平岸高等学校教諭

助　言　者	司　会　者		運営委員	記　録　者
鹿嶋　健 道造形教育連盟顧問	柏木　順 札幌市立いなづみ幼稚園教諭	斉藤　三佳 札幌市立白楊幼稚園教諭	鈴木　和美 千歳わかば幼稚園教諭	三平　貴美　千歳わかば幼稚園教諭 嘉屋亜希子　千歳わかば幼稚園教諭
森川　昭夫 道教育大札幌校講師	鉄田　貴子 千歳第２メリー幼稚園教諭	金内　祐子 千歳第２メリー幼稚園教諭	新潟真理子 千歳わかば幼稚園教諭	小俣　絹　千歳わかば幼稚園教諭 内藤　由貴　千歳わかば幼稚園教諭
渡辺　貞之 深川市立深川小学校教諭	菊地　俊弘 石狩町立八幡小学校長	日下　薫 小平町立鬼鹿小学校教諭	山田　眞美 江別市立江別小学校教諭	野村　利明 恵庭市立和光小学校
坂口　三津雄 蘭越町立港小学校長	野原　嘉人 広島町立西の里小学校教頭	千葉　錦一 えりも町立えりも小学校教頭	中野　悟 江別市立江別第三小学校教諭	津川　邦彦 恵庭市立柏小学校教諭
手代木　惇 八雲町立野田生小学校長	伝住　修一 江別市立江別第二小学校教諭	今野　博信 室蘭市立知別小学校教諭	長谷部典孝 江別市立大麻小学校教諭	説田菜穂子 石狩町立八幡小学校教諭
鈴木　文雄 早来町立遠浅小学校長	土井　勝典 石狩町立紅葉山小学校教諭	岡田　貴幸 余市町立沢町小学校教諭	富樫　剛雄 広島町立大曲小学校教諭	高倉　妙子 恵庭市立恵み野旭小学校教諭
絵面　和子 函館市立石崎小学校教頭	松島　斉 千歳市立向陽台小学校教諭	岡本　眞一 幕別町立糠内小学校教頭	鈴木　秀幸 広島町立大曲東小学校教諭	紺野いく恵 石狩町立八幡小学校教諭
萱場　敏彦 室蘭市立東明中学校長	堂下由紀子 江別市立江別第二小学校教諭	吉中　博道 上富良野町立上富良野小教諭	秋本　和子 江別市立対雁小学校教諭	千葉扶佐江 江別市立文京台小学校教諭
多田　紘一 札幌市立北白石中学校教頭	野澤　紀義 当別町立当別中学校教頭	川合　薫 旭川市立明星中学校教諭	本田　章 江別市立江陽中学校教諭	天谷　道子 厚田村立聚富中学校教諭
長谷川英二 苫小牧市立勇払中学校教頭	岩間　弘光 恵庭市立恵北中学校教頭	中島　洋一 滝川市立江陵中学校教諭	川名　義美 石狩町立花川北中学校教諭	小田島裕美 千歳市立北斗中学校教諭
鈴木　俊昭 音威子府村立音威子府小校長	桑田　正博 広島町立東部中学校教諭	村上　陽一 帯広市立緑園中学校教諭	陰山　千文 千歳市立真町中学校教諭	工藤　宣子 恵庭市立恵み野中学校教諭
	福士　隆敏 道立札幌厚別高等学校教諭		横山　和郎 道立千歳北陽高等学校教諭	高橋　知子 道立恵庭南高等学校教諭

公開授業

校種	学年	領域	題材名・内容	授業者・学校名
幼稚園	年中	表現	ぼくたち・わたしたちの竜宮城	玉木美香 本田美智子　千歳わかば幼稚園
	年長	表現	つくろう、アニマル・ランド	相坂いずみ 馬越脇由香　千歳わかば幼稚園
小学校	1	造形あそび	トンネルめいろ	吉田かおり　千歳市立向陽台小学校
	1	つくりたいものをつくる	ペンペンとリスリスの大冒険	米積由佳　千歳市立祝梅小学校
	3	絵にあらわす	ある日、夢でみたんだよ	古林史子　千歳市立信濃小学校
	4	つくりたいものをつくる	トローリ、ボタボタ不思議の国への贈り物（石膏で遊ぼう）	山田陽子　千歳市立桜木小学校
	5	つくりたいものをつくる	アルミ缶を使って作ろう不思議な世界 ～ぼくたち・わたしたちからの提案～	村田勝巳　千歳市立向陽台小学校
	6	絵にあらわす	森の中に入ってみると……	平山一弥　千歳市立北陽小学校
	学年合同4年	造形あそび	晴天時　フォレストシティ2055 雨天時　デザートシティ2055	伊賀悦子 小山寿樹 駒場雅子　千歳市立向陽台小学校 奥田信恵 小森政英
中学校	3	絵画・彫刻	自己をみつめて （自分という人間の存在証明）	山崎正明　千歳市立向陽台中学校
	3	デザイン	異次元の世界からのデビュー （CDジャケット制作）	山田浩人　千歳市立青葉中学校
	3	工芸	夢中にさせるおもちゃ	浜口秀樹　千歳市立千歳中学校

分科会研究協議の記録



幼稚園年中分科会記録

『表　現』

〈発　表〉

・公開授業
授業者　**玉木　美香・本田美智子**
（千歳わかば幼稚園）
題材名　**『僕達、私達の竜宮城』**

幼稚園で飼っている金魚、近くに流れる千歳川、「さけのふるさと館」見学…水の中の世界にも興味を持ちだした。そして保育の中で楽しみにしている絵本やお話の世界。浦島太郎のお話をきっかけに部屋全体を海に見立て、いろいろな材料をもとに友達と楽しい雰囲気の中で、つくり、遊ぶ。

・提言１
提言者　**古川　明美**（千歳メリー幼稚園）
『表現しようとする気持ちを育てる』

子供がワクワク・ドキドキする体験を豊富にさせたい。そのための題材開発や動機付けを大切にしている。

３歳児にとっては遊びが個から集団へと発展していく大事な時期であるため造形活動をコミュニケーションの一方法としてとらえ、年間カリキュラムを５つの視点に沿って組んでいる。提言は「色水遊び」の様子をビデオを用いて発表した。そこには子供の豊かな表情が写しだされいた。

・提言２
提言者　**吉田耕一郎**
（札幌市立きくすいもとまち幼稚園）
『年中児とかかわる時
…生活の流れの中での造形』

教師側のプランを先行させると、楽しい表現が生まれてこないように思える。

そこで、環境の中で造形的な遊びが随時できるようなスペースを設けたり、ごっこ遊びのなかの造形的な表現を大切にしたり、遊び感覚で、全員で何かに取り組めるようにしている。

〈分科会討議〉

■討議の柱

1、子供に育んでいきたい豊かな心と確かな力につながる基礎・基本をどう押さえたか。
2、子供に豊かな心と確かな力を育むため、題材をどのようにとらえ、開発と見直しをしたか。
3、子供達の表現意欲を引き出す手立てをどのように工夫したか。

1、授業に関する研究協議

（1）意見交流

・教室の中の雰囲気が良く、子供達もその気になるような環境になっていたと思う。
魚は形が初めからできていたものを使っていたのだろうか？

・部屋の中が海の感じが良く出ていた。アイスカップなどの身近な素材を生かしていたことも

良かった。

・導入はどのように行われたのか？

・作業の様子を見ていてもっと子供達の声が聞こえればよかった。また表現遊びがもっと出てくると良いと思う。

・海の中ということで、これから水に親しめる時期であり、季節的にもよく、発展が期待できる。２学期も続けると聞いたのでこれからが楽しみ。

・子供達が道具の使い方によく慣れていた。道具も使うものだけを出し、目的を持ってしっかりと使っていた。

・イメージづくり・環境づくりがうまくできていたと思う。自分でつくって完成した物を楽しそうに貼ったりしていて、子供達が生き生きとしていた。
　絵本の関係とこれからの発展がどうなっていくのか興味深い。

・導入と終りが大切だと思うので、どのように行ったのか？絵本も海のイメージにつながっていたので良かったと思う。釣竿をつくってそれから発展させたかったのだと思う。限られた時間と空間ということもあるが、ごっこあそびが発展するとさらに良かった。

・作ったもので何か発展があると良いと思ったのだが、それがなくて残念。表現遊びなどが見られると良かった。
　教室内に張られていたスズランテープがあるせいで見にくかったのではないか？

・絵を描くにあたって子供達がじょうずに色塗りをしていたので驚いた。

・子供達が落ち着いていたと思う。またハサミの使用も慣れていた。長時間の作業でありながら子供達が飽きずに取り組んでいた。これが根気や集中力をはぐくんでいくことにつながっていくと思う。

・テープを使うとき一列にならんでいるのには感心した。

・環境の設定が良く、材料も使いやすさを考え、子供達がごく自然に材料や用具に手がのびるようきめ細かな配慮が感じられた。このような積み重ねが日頃からなされているのだろうということを感じさせる。

・色の塗り方が力強く、伸び伸びと塗っていた。

・一つのものを長い時間続けて行うのは大変だが、子供達が意欲的だったのには感心した。

・動機付けが良かったから長時間の作業ができたのだと思うし、またこれまでの環境づくりが良かったのだと思う。
　先生が作ったり、使ったものを真似するのではなく、子供達が自分たち思い思いのものを使って、作っていたのが大変素晴らしい事だと感じた。

・今日の造形活動が子供達の心の中に想い出として残る物だと思う。

・これらの積み重ねが豊かな心や確かな力を育んでいくのだろう。

・導入はどのようにしたのか？

＊「鮭のふるさと館」に見学をしてきた後、バイキンマンから手紙がきたという設定で、子供達は魚をつくった。（＊印は授業者の発言）

・初めからこのような部屋でやっていたのか？

＊初めからこのような部屋ではない。
　部屋づくりは海にまつわる子供達の言葉がヒントとなった。ある意味では子供と共につくった部屋ともいえる。

・泣いてしまう子への対応はどのようにしているのか？

＊子供に自信をつけさせて、作品ができあがってからさりげなくほめてあげる。

・道具の使い方の指導はどのようにしているのか。

＊教えるというより、教師が楽しそうに使用しているところを見せてあげることから始めるようにしている。

・並んで待つということがよくできているがどのように指導してきたのか。

＊入園以来の生活で身に付いている。

＊魚を作り上げて雰囲気が盛り上がった時海に連れていってあげたい。

・スズランテープで見ずらく、じゃまにならないのか？

＊子供の目線に立つと問題はない。立っている教師からは見にくかったかもしれないが。

・絵の指導はどうなっているのか？

＊色の塗り具合を子供達なりに他の子供と見比べどのように塗ったらよいかをつかみ取っている。また教師に聞きにくれば助言するという姿勢でいる。教え込んだりということはしていない。

・ごっこ遊びがあった方が良いと思うが？

＊今日は「バイキンマンのためにお魚をたくさんつくろう。」ということだったので、あえてごっこ遊びにつながるような導入はしなかった。

・見本を真似する子供はいなかったのか。

＊魚づくりに関しては真似する子どもはいなかった。はじき絵は見せると真似をするので一度子供の前で「魔法の液だよ」といいながら実際にやって見せて、すぐ隠すなどの配慮をした。

（２）保育環境について

・（保育環境）環境は素晴らしい物でした。
海をイメージしたビニールシート、テープ。
子供が海にいるという感じが出ていた。

・（子供の集中力）４歳の子供にしては高い集中力があった。一人一人が自分のしたいことを見付けていた。

・（保育の工夫）静かな音楽が良い。

・（生活のリズム）先生が静かにしなさいといわなくても静かにすべきときはきちんとできていた。

・(先生と子供) 信頼関係を感じる。子供と教師の息があっている。

・(子供の行動) 周囲の状況をみて子供達なりに判断し、行動していたのは立派。

2、提言に関する研究協議

・幼い頃から子供がワクワク、ドキドキするような体験を数多く積めるようにしていくことは大切。

・生活の中から自然な形で、子供の造形的な表現を大切にしていくということは重要だと思う。遊び心を大切にしたい。

・出来上がった物で遊ぶということよりも、作ることそのものを楽しむことも必要だと思う。

・子供との対話が大切である。

・用具の使用などでは危険なことについてはしっかりと教えるべきである。

3、助言者から

・保育の考え方によって、保育の内容が変わる。教師がしっかりと認識しなければならないことである。

生活の中で驚きがたくさんあり、発見をする。その発見も漫然とした中からは見えにくい事もあるので教師の適切な援助が必要。発見から様々なイメージが膨らみ、広がる。

そのためにも様々な体験が必要である。

子供の表現は、どんどんほめ、認めてあげることが次への表現意欲を生み出す。今まで表現されたものが、園の生活の中で生かされるようにしたい。

・早くやってみたい、つくってみたい、遊んでみたいという気持ちにさせることが大切である。さらに子供のイメージが膨らむようにしていきたい。

道具の使い方については教えるべきことはきちんと教えることが必要。

子供へのアプローチの仕方によって活動の質が変わってくる。

幼稚園年長分科会記録

『表　現』

〈発　表〉

・公開授業
授業者　**相坂いずみ・馬越脇由香**
（千歳わかば幼稚園）
題材名　**『つくろう、アニマルランド』**

子供達にとって動物はとても興味を引く対象。その動物達と遊び、楽しむアニマルランドをつくろうとなげかけた。

床に広がった大きな大きな紙の上に、仲間と協力しながら思い思いの動物達をかいていく。楽しい音楽が流れる中、楽しく遊ぶ、その結果として自分たちだけのアニマルランドができあがる。

・提言１
提言者　**森　美由紀**（札幌市立ふくいの幼稚園）
『幼稚園という環境の中で』

子供の素朴な思いから好奇心や探求心・ひらめき・創造性の芽を育て、太らせていくことが「豊かな心」を育むことである。心の中に芽生えたことを自分なりに表現してみたい形にしてみたいという思いから、活動の積み重ねられ、それによって培われ、蓄えられていくものが「確かな力」である。そして「造形学習」とは遊び。これらを押さえた広い意味での「環境」づくりが幼稚園では特に重要。

・提言２
提言者　**山下　清江**（函館市立松風幼稚園）
『自らの活動に取り組み、豊かな心情や思考力の芽生えを培う援助のあり方』

教師の援助の視点として、３つのポイントを押さえた。(1)幼児一人一人の発達過程をとらえた幼児理解。(2)意欲的に関われる環境の工夫。(3)教師と幼児、幼児相互の好ましい人間関係づくり。

教師は幼児の内面を共感的に理解しながら個々の感じ方を大切にしながら、意欲的に活動していけるような環境づくりも工夫していきたい。

〈分科会討議〉

■討議の柱

1、子供に育んでいきたい豊かな心と確かな力につながる基礎・基本をどう押さえたか。
2、子供に豊かな心と確かな力を育むため、題材をどのようにとらえ、開発と見直しをしたか。
3、子供達の表現意欲を引き出す手立てをどのように工夫したか。

1、授業に関する研究協議

（1）意見交流

・大きな紙をとりあげていたが、ローラーなどは事前に練習していたのか？

＊大きな紙にローラーを伸ばしながら遊ばせる形で経験していた。（＊印は授業者の発言）

・子供達が伸び伸びと楽しそうに活動していたと思う。

＊大きな場所で子のような活動をするのは初めてで、音楽などを取り入れて良かったと思った。

・模造紙の大きさに驚いた。３歳児とはずいぶん違い、教師の言葉を理解し忠実に行動できていた。グループ分けをしていたがいつ頃からしているのか？

＊１学期は教師が決めて、２学期からは子供達に決めさせている。

・トイレットペーパーなどをとりあげていて大切にしなければならないと思った。今後は身の回りの廃品にも目を向けたい。

・３歳児保育から進んでいる子は何人ぐらいなのか。また、絵などは見た経験などを元にしているのか？

・会場がいつもの場所ではなく大変だったと思うが、先生方がその条件の中でいろいろな道具や材料を準備されているなど親切だと思った。筆がないようでしたが、最後の方に男の子が自分の描きたい熊を刷毛で描いているのを見て安心した。
　紙が大きいのでダイナミックにというわけではなく、子供達のエネルギーがもっと感じられたらよかった。先生の援助でもっと引き出されたかもしれない。

・今日の授業の段階を教えてほしい。

＊絵本の中の動物に友達をつくってあげようということから始まり、大きな模造紙に動物を描いてホールに貼った。そして「もっと大きな紙だったらどうなるだろう」と投げ掛けて、発展してきた。

・立体的なものや平面的なものがあって、自分もこのように実践すれば良かったと思った子のような方法を積み重ねていくことで子供の個性がうまく引き出されていくように思える。

・裸足によって感触を楽しむということは良いことだと感じた。先生方の声かけによって慣れない子も自分の表現をしていたように思える。集中力が素晴らしく、自分が普段させてみたいと思っていたことが目に前でなされていた。音楽をかける目的を教えてほしい。

＊音楽は動物に関する物で、イメージを膨らませるための補助的なもの。

・子供達が今後どのようにして自分たちの作った動物たちと遊び接していくのか楽しみ。

＊自由に伸び伸びと子供達が成長していける環境を作っていきたいと思う。

・子供達はどのようにして表現への見通しを持ったのか？

＊大きな紙を前にして、「ここにはこんな動物がいたらいいね」という形で、同時にグループを作った。

・集団という環境は小学校３、４年生ぐらいで意識されるものだが、このような形だと幼稚園が橋渡しの役割を果たせるだろうと思えた。

（２）助言者から

・先生の声が小さかった事が良かった。笑顔でヒソヒソと話す中で、子供が納得することはとても大切な事だと思う。

図鑑を見て絵を描こうとすると、描くことそのものがストップしてしまうので、子供の考えた絵のほうがもっと素晴らしいものができると思う。

先生はもっと感動した声を出した方がさらに良い。

最後にみんなで完成した絵を見たことはとても良かった。

2、提言に関する研究協議

①『幼稚園という環境の中で』

②『自らの活動に取り組み、豊かな心情や思考力の芽生えを培う援助のあり方』

・教師が無理をする必要はない。子供の視線に立って、子供の気持ちになり、という姿勢を持ち続けたい。そして子供なりのイメージを大切にしたい。

・プールの絵では水に濃いところや薄いところがあって良い。

・子供の絵に対する教師の声掛けは大切。子供の意欲を引き出すように、イメージを広げるようにしたい。

・子供の声をひろって、遊びにつなげていくのは大事な事だと思った。

・子供の本当の成長を大切にしながら、公立ではやっている。背伸びをさせない。今の親は子供が作品を家に持ち帰ったものを見て、他の幼稚園と比較し、うまい、へたのような価値観で判断してしまうところがある。

・発達段階をしっかり押さえる事が大切である。

・どこかきたなくてもいいという環境が大事。きれいごとに考えず、教師の援助や完成が大切。

・子供が絵を描くときなど、テレビの影響がある。カラービニール袋などを使って、洋服をつくりファッションショーをしたときに、セーラームーンが出てきた。子供を取り巻く環境について考えさせられることも多い。

・私の幼稚園は、見栄えのする絵を求めている。子供にとって絵を描くという意味を考えると、園の方針を改めさせたい。

・親が子供の絵を出来栄えによって比較するという傾向は困ったものである。親への啓蒙も必要かもしれない。

・出来上がった作品ではなく、なにより人間教育ということが大事。

・形にならないということにとらわれるのではなく、豊かな心で伸び伸びと自由に描けるようにしたい。

3、助言者から

・表現というのは子供の心から生まれてくるもの。ここを大切にしたい。

器楽演奏などの音楽は大人から子供へのおしつけのように思える。

幼稚園には教科書はない。その意味を考えたい。

造形だけは、子供自らが自らの心でつくりあげたものでありたい。

教育とは「共に育つ」ということ。そこに教育の原点がある。

子供が気がつかないことは教師が教えてあげる。

・絵には必ず「自分」が出てくる。先生と子供、友達が一緒になって学ぶ。大事にしたい。子供一人一人の発想を教師がどう受け止めていくのかが大切だと思う。

アクセサリー工房

マルチメディア工房でコンピュータと向きあう

小学校低学年A分科会記録

『造形遊び』

〈発　表〉

・公開授業
授業者／**吉田かおり**（千歳市立向陽台小学校）
題材名『**トンネルめいろ**』
……段ボールを使って

同一素材を年間通してなれ親しむ事を重視、その中で発想の広がりや取り扱いを体得させたいという願いから身近にある段ボールに着目、今回はその段ボールで大好きな迷路をホールいっぱいにみんなで作った。軽快なBGMにのって全身を動かして夢中になって作り遊んでいた子供達の姿が印象的。

・提言1
提言者／**菅原　治子**（江別市立野幌若葉小学校）
『素材の特性を生かし、造形意欲をかき立てる題材を求めて』

『材料の可能性を生かした題材』にこだわり次の造形活動につながる造形遊びの位置付けを考えてみた。身辺素材の発泡スチロールトレー切り込みを入れて組み立てさらにテグスで吊り上げると白く大きなオブジェの完成。ライトアップでそれは宇宙の樹となり、イメージはさらに広がっていく。

・提言2
提言者／**和田　浩司**（幕別町立中里小学校）
『地域の環境や素材を生かした造形活動』

自然に囲まれた小規模校の特性を生かした造形教育の原点ともいうべき実践を展開。全校生徒で川原に行き粘土を採取、様々な種類の粘土を作り学年の発達段階に応じて楽焼や彫刻の様々な作品を作る。その中で子供達は多くの発見と感動を体験していく。

〈分科会討議〉

■討議の柱

1．小さな素材から大きなものへ、個からグループへの流れは表現意欲とどうかかわるか。
2．同一素材での通年指導は、子供の発想の広がりや造形意欲との関わりはどうか
3．子供の発想を広げる創造力を生かす題材、素材の開発はどう図るか。
4．子供の驚き、興味関心を高める地域素材や環境の活用をどう図るか。

1．授業に関する研究協議

（1）授業者から

・題材名については子供達が自由に広く楽しく活動できるよう単純に『トンネル迷路』とした。

・素材として段ボールを使ったのは、大きくて軽く丈夫であり、中の波形がクッションの役割を果たし適度な弾力性と緩衝作用を持っていて加工し易く、1年生にとって興味深く親しみやすいものであると考え選定した。

・指導の流れとして、4月から段ボールを扱わせ、初期は小さな物をちぎることから始めだんだん大きな物に発展できるよう題材を組んできた。

・研究課題との関わりは、仲良く楽しく遊ばせることにより、イメージを膨らませ創造力を培うことを目標とした。
期待した。

・意欲を引き出す手立てとして、常に手の届く所に段ボールを沢山おいて自由に遊ばせることにより興味や自由なイメージの広がりを期待した。

・授業の流れは迷路を作り、遊び、さらに手直しをしながらまた遊び発表するという全体計画の③、④、⑤の３段階を順不同で進めた。

・普段とは違う学習環境で子供達少し固い様子で授業が出発し、活動の重点も外（トンネルを拡大する）に向かっての活動ではなく、内（トンネル内を飾る、電灯をつける等）に向かっての活動になった。

（２）意見交流
・段ボールをちぎることから活動を始めているがそれは破壊につながるように思われる。そこから造形活動にどう結び付けていったのか？

＊ちぎりの山の中から何かを作りたいという意欲が自然発生的に生まれてきた。

・学級全員で一つの作品を作り上げることは低学年では大変難しいことだが、その指導法は？

＊個人作品→グループ作品→グループとグループと指導や指示なしに自然発生的に子供達が発想し進展させていった。

・段ボールの取り扱いがじょうずで学習の積み重ねの大切さを痛感させられた。

・子供達の豊かな、そして自由な発想はどのようにして生まれ育ったのか？

＊段ボールを自由に使える状態にし、自分のやりたいことから自由にやらせるようにした。
　また、段ボール以外の必要物も途中で生じてきたがそれらのものは途中でその都度用意した。

・見て感動するような作品にはならないと思うがどうか？

＊一つ一つ遊び楽しみながら作品をつなぎ、子供達の夢がどんどん広がり心が作品と一体になり段ボールの世界に溶け込んでいった。
　このようにして長時間なれ親しんできた作品を大切にするとともに作品に感動する子が育ってきた。

・人間形成の場となり、意欲を育てる授業だったと思う。

・私の学校で空き缶集めから始め、小さなものから大きなものへと作品作りをしていったが豊かな発想が生かされ充実感を子供達に得させることができた。

・発想を盛り上げる支援として大切なことは発想を見取ることである。子供達はいろいろと発想し、また発想から新発見し自ら育っていく。教師の意欲と感動が子供達に伝わる素晴らしい授業であった。再度拍手を送りたいと思います。

（３）助言者から
・子供達は生き生きと段ボールと一体となって意欲的に楽しく活動していた。

・指導案にない方向に授業は流れていったが目標に十分達した授業であった。
　迷路になっている部分と、くぐれない部分があったが、それは段ボールの素材に違いがあったためで、目的に合った段ボールを与えてあげると良かったのではないか。

・音楽を流しての授業であったが、完成の段階なのでその必要はなかったのではないか。

・最後に何を作ったかを発表させていたがその必要もなかったように思う。

2．提言に関する研究協議

（1）『素材の特性を生かし、造形意欲をかき立てる題材を求めて』
・トレーを下に向けてつなぎ、作品を作り上げていく方法に感心した。また、出来上がりもきれいで不思議なツリーに見え、トレーに魅力を感じた。

・子供達は、色づけを要求しなかったか？

＊子供達は作る方に意欲が集中し、その要求はなく、色変わりのトレーを使っている程度であった。また、教師サイドからも要求はしなかった。

・トレーを使った造形遊びで色づけをさせた経験のある先生は？

＊トレーにビーズや貝殻、セロファン等を加え、発展的な指導をした経験があり、子供達は意欲的に取り組んでいた。

・造形遊びをさせるのに、トレーから始めるのは子供達の身の回りにあり、手に入れ易く思考を広めるために適材であると感じた。

（2）『地域の環境や素材を生かした造形活動』
・粘土作り（彫る、砕く、練る）は造形にならないと提言されたが、それこそ造形のもととなる造形遊びそのものではないか。

・札幌の学校では自然の地域素材はなく、既成のものしか使用していないので、粘土作りから始まる作品作りには感動した。

・札幌に唯一自然素材として新川に牧場があり、本校では写生会等で利用しているが、多くの学校では時数等の関係があり写生会を取り止めている現状だ。

・多くの学校では地域素材などは身近には無い。近くに良質の地域素材があるならばそれを地域文化と結びつけた地域起こしにつなげることはできないものか。

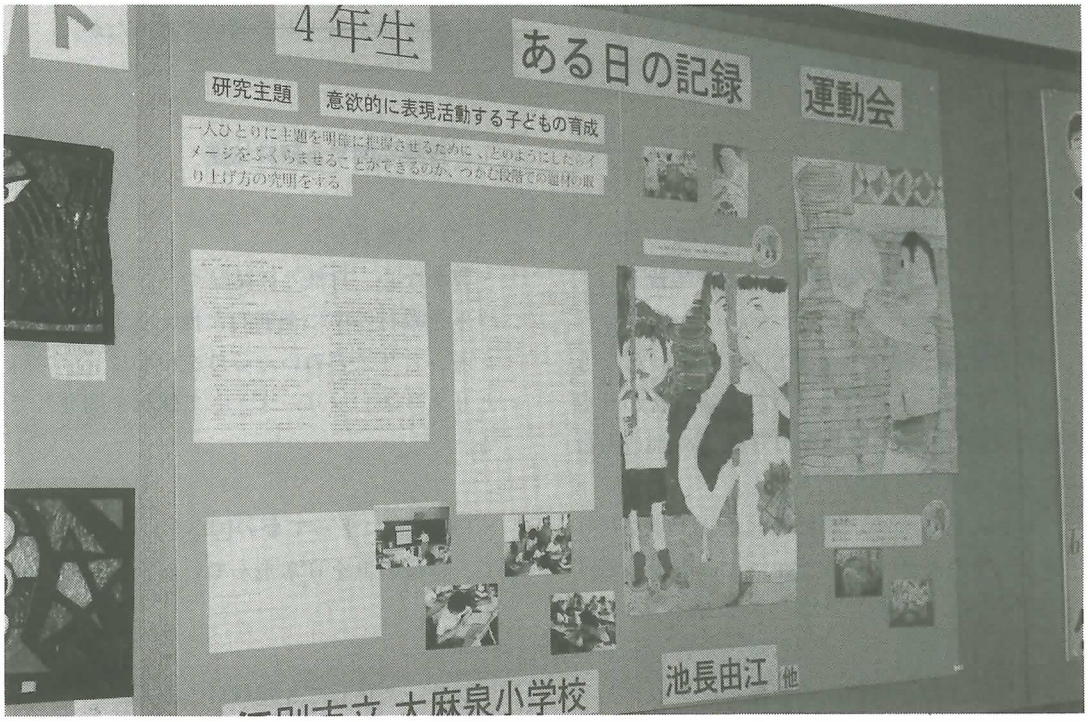
・造形活動（遊び）は造形活動を通して人間性、人間形成をすることである。

（3）助言者から
・造形遊びは、自分達の生活のいろいろな場面で役立つヒントを与えることにつながる。

・自然素材は、身の回りにある野の花でも利用することにより子供達の意欲や向上心を培うことができる。そういう意味で発泡スチロール、トレー、石、自然粘土等の地域素材を発見し、開発する事は素晴らしい事だと思う。

・大都市でも田舎には無い地域素材（トレーやペットボトル、空き缶等がいい例）があり、それを発見することが我々の大切な研究であり務めである。

小学校４年生「トローリポタポタ、石膏で遊ぼう」



石狩の授業実践パネル

小学校低学年B分科会記録

『つくりたいものをつくる』

〈発　表〉

・公開授業／１年生
授業者／**米積　由佳**（千歳市立祝梅小学校）
題材名**『ペンペン・リスリスの大冒険』**
～飛行機に乗って夢の国へ～

子供達が目を輝かせ、『つくってみたい！』と思う題材とは…。何気なく教室の棚に置いたぬいぐるみのマスコット、ペンペンとリスリスを子供達は大好きです。時には誕生会に沢山のご馳走を作ってあげたり、一緒に旅をしたり。

マスコットと子供達のこうした心情的な結び付きを教材の中に発展的に取り上げてシリーズ化した題材を開発。子供達の『つくる思い』はますます膨らむ。今日は飛行機に乗って夢の国へ大冒険。

・提言１
提言者／**濱野三喜男**（恵庭市立和光小学校）
『子供が夢中になる造形学習』

一枚の紙袋を様々な表現方法でいろいろなものが作られる。さらに他の材料の組み合わせで表現の可能性がさらに広がり子供達の創造力は体育館を大きな水族館に変えた。

たくさんの丸太を広場に並べたり、組んだり吊るしたりしながら大きなオブジェをつくる。『手の労働』を重視し、楽しみ工夫しながらイメージつくりを行う。つくる喜びがさらにイメージを強め子供達は体全体を使ったダイナミックな造形活動に没頭していった。

・提言２
提言者／**松浦　恵子**（帯広市立明星小学校）
『ゆめのすいぞくかん』

教室を夢の水族館に見立てて、ペットボトル等の透明容器を中心に様々な身辺素材をつけ加えだれも見たこともない生き物を泳がせてみる。

既成の素材やおもちゃから離れ、自らのイメージを広げ、作り、遊び、工夫していく子供達にするには教師はどんな援助をしていかなければならないか。

〈分科会討議〉

■討議の柱

１．題材は一人一人の思いや良さを生かす上で適切であったか。
２．教師の働きかけは、一人一人の表現意欲を引き出す上で適切であったか。

１．授業に関する研究協議

（１）授業者から

・豊かな心、自然との結びつき、心情的な結びつきを教材の中に発展的に扱えるようにと、ペンギンとリスのぬいぐるみを中心に『ペンペンとリスリス』シリーズとして題材を開発している。

・『飛行機に乗って夢の国へ』の場面設定として、学校の上を日常飛んでいる飛行機を中心に組んだ。

・シリーズ化して３題材目である。

（2）意見交流

■討議の柱１に関わって

・発想や構想の段階はどんな風に行ったか？

＊ペンペン・リスリスからの手紙を受け、夢の国の建設会議（話し合い）を始めた。

・ペンペンとリスリスのシリーズ化とは？

＊何気なく飾っておいたぬいぐるみに、子供達は屈託のない接し方をしてくれている。いつも自分達を見ていてくれる学級のマスコットとして大好きで、心情的結びつきは強い。

・ぬいぐるみに語りかけ、一緒に連れて行きたいという願いが意欲や気持ちの持続につながっていった。１年生の段階として、こういう世界に誘っていくことはとても有意義だと思う。

・自分の作品の対象（ペンペンとリスリス）が存在していることは、一生懸命に工夫する力になると思う。

■討議の柱２に関わって

・用具・材料をどの様におさえたか？

＊１年生の段階は、ハサミ、ノリを基本に考えている。日常的に朝の時間を使ってハサミの基本練習をしている。その他ホッチキス、セロテープとおさえており、幼稚園での経験も何とかして生かして行っている。
　カッターは教師がやっている。

・糊の使い方はどうか？

＊指で感覚的に覚えるのが基本であるが、メーカーが子供達の実態を考え、手が汚れないようなものが出てきている。本当は両方つけて少し乾かしてからつけるようにするとよい。

・基礎・基本としては、一度出して指でのばすことが望ましい。

・指導する側もマニュアルをもとに試すことをした方がよい。他の接着剤についても材質によっては使用させてもよいのではないか。

・必要にせまられて材料を扱ったり、失敗して材料を変えたり、その中で用具や材料の扱いを覚えていく。支援する教師も教材研究が必要である。材料や用具についてどれだけ教師側でおさえているだろうか。

＊二通りの方法があると思う。『こういう場合にはボンドだぞ』と一斉に教えてあげるのがよいのか、子供が困難にぶつかった時に個々に教えてあげるのか。

・材料が過多になってはいなかったか？

＊表現過程の中で、子供達の意見を取り上げさらに用意をした。子供の要求に応じて広がっていった材料群である。

・子供のイメージがどれだけ固まっていたのか？

・『夢の国』よりは『夢の町』やさらに『夢の学校』の方が、狭められてイメージが膨らむのではないか。１年生の段階としては、イメージをできるだけ狭い範囲の中で生かしてあげるとよい。

・ペンペンとリスリスのストーリーで題材を追っていくことは素晴らしいが、イメージ（一人一人の思い）を大切にしていくと少し狭めて制

約をつけてあげても良いのではないか。

＊みんなの共通のイメージを持たせることも大切だと思う。このあたりをどう考えていくかで材料や用具についてもその扱い方が明らかになっていくと思う。

・一定の条件付けは必要になってくると思う。時期の問題もあるが、シリーズの中で今の時期（１年生は入学して数か月）で可能な範囲のものについて考えていってはどうか。

・入学して数か月の中で色紙の回し切りや重ね切りができている。生活体験や指導の中で身につけていることは素晴らしいと思う。

・学習の土台となる学級の雰囲気はよく集中して取り組んでおり、創作の世界の中に入っていて素晴らしいと思う。

（3）助言者から

・児童の心をひきつけていた授業であった。心情的に結び付きが強いものをシリーズ化して良かったと思う。

・『意欲付け』としての“手紙”による語りかけがとても良かった。

・『材料との出会い』はやや材料が多過ぎたと思う。いろいろな接合方法を体験するだろうが、発見することよりも教え込む場面が多くなるだろう。

・『安全指導』としてアルミの針金の指導は適切だったか問題も残る。

・『材料選び』では今までの学級作り、指導が生きていた。あまり一度に多くを与えないことが子供の発見につながってくると思う。

・できるだけ子供のつまづきを見ていてそれをやらせてみる、失敗してもやらせることが支援になる。

2．提言に関する研究協議

（1）『子供が夢中になる造形学習』

＜提言者から＞

・①『一人一人の表現を大切にする』
　②『自分の課題をもって学習する』
　③『新しい発見や驚きのある学習を』を基盤に水族館と丸太の実践を試みた。

・成果としては一人一人の顔が生き生きと輝きのある顔になった。また、互いに助け合いながら制作する場面が多く見られた。

問題点としては、材料との出会いをいつ、どこで、どのように出会わせるのが効果的か、また発想の段階でのイメージ化のあり方や発達段階に合った道具の使わせ方などさらに研究を深めていきたい。

＜意見交流＞

・自分の発想から材料を集めるのが普通であると思うが、与えるにいいだけ一杯の材料の中から発想させるのか？

・業者の材料一辺倒の考え、家庭から集めると大変という考えもあるが、この授業は材料を集めるところから発想が始まっていると思う。

・日常から学級で材料集め（材料銀行）をしていく方法もある。子供の意欲づけ、親の協力の働きかけが大切である。

・子供が材料を発見するということに主眼をお

き、年間の見通しをもって材料を集めておくことが大切である。

・高学年は見通しを持って集められるが、低学年は難しい。また、高学年といえども工夫の広がりの意味からも普段から集めておくのが有意義と思う。

（2）『想いをふくらませる指導のあり方』

＜提言者から＞

・①『イメージ化を図る』
　②『作り方を考え、さらに工夫を重ねて楽しみながら制作する』
　③『飾り付け、作品の紹介』を基本に据えて『夢の水族館』の実践に取り組んだ。

・持ち寄った材料＋教師の用意した材料→材料箱へ入れ、自分の使いたいなあと思うものを持って組み合わせてイメージ化を図った。

作業する教室も水の中になるように環境作りから入った。また、『模様の付け方』、『くっつけ方』を模造紙で図案化して表示した。１年生では材料集めにも限界があるので親の協力を得た。

・お互いに同じようなものを作っているので切り方、接着の仕方等の交流があった。またイメージ化を図るために見本を提示した。

＜意見交流＞

・『想い』を膨らませるためには一人一人をよく見て、表現方法や技法つまづきが起こらないように困っていることを早く読み取って上げることが大切であると思う。

・図工環境作りはイメージを膨らませるためにはとても良い。

・ペットボトルに限定されていることや、付け方、くっつけ方の提示は、やはり教師側からの提示ではなく、子供の発想や発見を大切にしていきたい。

・子供論から出発しないとこれからの造形教育はだめになるのではないのか。『冒険させる』はすなわち自主的にさせる、失敗させる、ということ、体験こそが大切である。

＜助言者から＞

・小学校は全教科を通して子供達に接していることを前提としたい。本来的に図工は楽しいもの、先生も楽しもうという気持ちがなければ子供達には伝わらない。また、失敗が貴重な経験になる。

・評価イコール順位をつけることと意識してはいけない。意欲や関心が大切である。

・新しい教科書はある程度見通しを持って子供達が取り組めるようになっている。

・道具は使わせないから使えないのである。発達段階をよく考え、どんどん与えても良い。

小学校中学年Ａ分科会

『絵にあらわす』

〈発　表〉

・公開授業…３年生
授業者／**古林　史子**（千歳市立信濃小学校）
題材名『**ある日、夢で見たんだよ！**』

教室で飼っている３匹のかえると自分を主人公にした夢の絵本を描くという造形活動。物語はリレー方式で作り一人二枚の完結型、５人でつないで一冊の夢の絵本が完成する。ＴＰシートや色画用紙を用い、新たな視点から子供達のイメージが広がる描画指導を試みる。

・提言１
提言者／**細川　道子**（石狩町立南線小学校）
『**子供の豊かな思いを育む造形学習を求めて**』

個々の子供の思いを生かす立場からの支援の在り方はどうあるべきか、『ある日の記録』～体験による絵～の実践例をもとに、造形活動のベースとなる豊かな体験活動やゆとりある授業の展開の設定、さらに教室環境の整備や支持的風土の育成などを展開する。

・提言２
提言者／**内山　博之**（教育大付属釧路小学校）
『**創造性を生かすための感性にひびく学習指導のあり方**』

造形教育が果たす教育機能は、見取る力、創造する力、行動する力の三つに集約される。遊び心を取り入れることによってその三つは育成されという仮説のもとに、モダンテクニックと言われる様々な表現技法を遊び試し創作しながら子供の概念崩しと驚きや感動の触発を試みて言った。

＜分科会討議＞

■討議の柱

１．子供に育んでいきたい豊かな心と確かな力につながる基礎・基本をどのようにおさえたか。
２．子供に豊かな心、確かな力を育むため、題材をどのようにとらえ、開発と見直しをしたか。

１．授業に関する研究協議

（１）授業者から
・子供が楽しく出来る授業をしたくて教室に飼っていたカエルを主人公にした詩や絵を用いた絵本にした。

・５人でつなげ一冊の本にして１年生に見せたり、入院している子に見せようと投げ掛けをして導入したところ、図工の時間で少しのはみ出しをしたり間違えたりするとすぐあきらめるところのあった子供達がとても意欲的に取り組んだ。

（２）意見交流
・３年生ということだが丁寧で非常によく考えながら取り組んでいて素晴らしい。学級の中にあるものを教材にしたことが良かった。５人で一冊にしようということも作品を大事にしたり緊張感が生まれる要因になったのではないか。
・フィルムなどを使っていることも新鮮だった。色画用紙はどのように選択させたのか。

＊最初はパステルカラーにしたが、子供の方からのリクエストではっきりした色を要求してきた。用意してみると色を意識して塗り方や配色を考えていて良かった。

・私も６年生で色画用紙を用い絵を描かせているが基礎・基本の押さえ方やその効果はどうだろうか？

＊どの学年から絵の具を使うかも考慮し、パレットの使い方、筆の洗い方、一度塗ったら乾くまで待つなどをもう一度教えた。

・物語を作った時間は？

＊お話作りは作文（国語）の練習の時にリレーの話し合いをさせて作った。全員が終わるまで３時間かかった。

・リレー方式を用いた場合の見通しの持ち方は？

＊話し合いの見通しというよりは授業の見通しを考えていた。話の変化の中でカエルも工夫されて変化していった。

・この大きさにした考え方は？また一人の子供が二枚描くことにこだわったのは？

＊これ以上大きいとあきたり、時間も無いしＴＰの大きさにも丁度良い。また一人の子が二枚描くというのは一枚では頭の中が混乱するし分担をしっかり決めた方が良いので二枚の完結型にした。

・アイデアが良くて（ＴＰ、色画用紙）高学年向きでも良い授業である。水彩画として見るのか、絵画的というよりはお話重視に見える。シートにカエルを描く時の指導はお話の後でもいいのかも知れない。

＊裏・表を使って描くので、あらかじめ例を見せて二枚の絵に合うように位置を考えるように指導した。

・題材名が良い。材料や基礎・基本だけを重視するのではなく、主題や意欲・関心も含めた考え方をしないと本当の基礎・基本にならないのではないか。『見える学力』と『見えない学力』を考えて、子供に何を教えるかをはっきりさせておくべきだと思う。

・『ある日夢を見たんだよ』という題材は３年生らしい発想の広がる題材だ。実際１～３年の複式の子供達に絵本を作らせたことがあるが、喜んで取り組んでいた。

・パレットに出した色全部を洗うのか、私は小部屋はそのままにしているが。また、白を混ぜると濁るので私は使わせてはいないが…。

・３年生なので小部屋に残すとかえって他の色が混ざって汚くなるので毎回洗わせている。白を混ぜたのは色画用紙を使うから色を不透明に浮き立たせる為にやってみた。

（３）助言者から

・『新しい学力観』から３年目、これからもずうっと考えていかなければならない課題であり、図工美術としては表現と鑑賞の力を一人一人につけていかなくてはならない。

・一人一人の先生が指導観を大幅に変えていかなくてはならない。支援＝横から方向を持たせるような気持ちにさせ、個人の力を信じること。「また、やりたい。楽しかった。」と思わせ

るような授業を作る。また、場合によっては（自己責任として）『自分で考えなさい』とつっぱねることも大切なのではないか。

・動機をはっきり決めさせるのは教師の役割であり責任である。時間はかかるが子供自身にまかせることが大切だ。また、評価は自己評価をして意欲付けをしていくことが大切である。

・画用紙の選択、絵の具だけでなくクレパスやクーピーなども選択させると『個の感性を磨く』ということがもっと引き出せる。そういうきめ細かな指導は一斉指導では無理で、机間巡視を大切にするのが教師の出番と思う。

2．提言に関する研究協議

■提言者から

（1）『子供の豊かな思いを育む造形活動を求めて』

・日常的な活動を重視しているので特別な事ではない。『生涯学習』＝自分を表す＝絵を描くということ＝豊かな心と自分の力を出し切っていける＝学級の風土をきちっと作っていかなくてはいけない。学級作りが大切で造形活動はその一環である。

・４年生は『重なりを表す』、『ある日の夢』の二つの絵を描く単元がある。『ある日の夢』（表現・訴える力）は、子供には10日前に考えさせ選択させた。出来事ノートや絵日記なども事前にやって、世界、日本、地域のニュースを考えコメントさせた。クラブや委員会活動などから子供達はありのまま、迷わず選べられたようである。後に自己評価や何に対して関心を持っていたか、工夫したかを１時間とったらもっともっと広がりが持てた。

・『３色以上の絵の具を混ぜたら汚くなってしまうね。どうしてだろう？』と投げ掛けて見た。教師が教えるのではなく子供に考えさせることを重視している。また、一言も肉声を聞いたことがない子がいたが絵で自分を上手に表現していた。

（2）『創造性を生かすための感性にひびく学習指導のあり方』

・直接体験を大切にし、学習の中に『遊び心』を取り入れてイマジネーションをふくらませ、豊かな情操を強調した。

・『海で遊んだんだよ』はモダンテクニックを紹介しながら広がりを持たせた。画用紙に穴を空けたり、マーブリング、スパッタリング、コラージュ、スタンピング、ドローイング、吹き流しなどを２時間かけて行った。

・導入の『穴を空ける』でまず概念を崩し、『波の音』を聞いてもらった（効果音）。たわしを25個程度揃えてやったスパッタリング、バッドの中に売っている物を入れて偶然性をだしたマーブリングを多くの子が楽しんで試していた。子供達が高めあえる授業をしていきたい。

（3）研究協議

・１・２年～クレパス、３年～絵の具に移る時に抵抗感がある。また、サインペンの使い方、などどのようにして教師は働きかけていくべきか。

・技法の選択は子供自身の成長・発見にまかせていくべきかどうか。

＊基礎・基本などしっかりおさえなければならないことは教師からおさえていく必要がある。

・国語的か図工的かということが気になる。『ある日の夢』で記録をとりよく思い出すと書かなくてもいい余計な事が出てくるのではないか。ヒマワリがきれい、大きいなど一点にしぼった方がいい。少し文章的になってはいないだろうか。

＊『ひまわりの絵』は思い出に残ったことを大切にし、自分を入れるということを前提とした。絵と文どちらを完成したと感じているかと言えばやはり絵である。文は5分程度しか書いていない。

＊言葉の使い方一つによって窓一つ作るのも変わり子供の気分も変わっていってしまう。表現意図と技法がうまく合わさらなかった。

・新しい技法をしてみて子供達の間で教え合いなどはあったか。

＊幼稚園時代にやったこともあるという事で教え合っていた。

・モダンテクニックの授業は造形遊び的な要素があり、もっと焦点をしぼるべきなのでは？

＊ワクを作っていくべきだと思う。自己評価をする時間もとっていった。

・子供の夢や願いが大切。扉をつけている意味を考えてみるべき。思いのままにというのはでたらめにともとれてしまうので、教師のいる意味を教え、子供も教師も共に立ち向かう両方の教え合いが必要。子供にまかせても教師にまかせてもいけない。また、子供の思いを促す題材設定を教師はしなければならないと思う。

・『絵が嫌い』＝細かな作業ばかりをさせること。教師サイドで枠をはめてしまうから嫌いになる。伝えたいと言う気持ちが基礎・基本であると思う。子供が工夫してそれがみんなに伝わると好きになる。子供に工夫しなさい、考えなさいと言うのではなく、教師がどれだけ伝え方の準備、用意が出来ているかが大切である。

（4）助言者から

・図工教師の役目は子供の表現する力を支援し助言していくことと私達自らが心に刻んでいかなくてはならない。

・絵日記風な試みは、発想、空想に広がりが出てくる。描く動機をはっきりさせていくとよい。子供達は子供なりに意志を持ってやっていると思う。

・日本と外国の絵の違いは、日本では指導が行き届き過ぎて最後に同じ絵になってしまう。技法技法と言わず、いろいろな表現があって良いのではないか。3年生くらいから正しく描きたいという願望が芽生えていく。そこで『下手、違う』などと言うと絵が嫌いになる。下手なのも才能と認める包容力もこれからは必要ではないか。子供がとっておきたいと思えるような作品作りを奨励していくべきだ。

小学校中学年B分科会記録

『つくりたいものをつくる』

〈発　表〉

・公開授業…4年生
授業者／**山田　陽子**（千歳市立桜木小学校）
題材名『**トローリポタポタ、石膏で遊ぼう**』
～ふしぎの国からのおくりもの～

石膏の初めトロトロ段々ネトネトその後ガッチリという感触を存分に楽しませたい。その石膏を色水で溶いてカラフルにし、心材にたらしたり飾りを付けたりして不思議な国からの贈物を作った。新しい素材との出会いに子供達はやる気いっぱいで取り組んだ。

・提言1
提言者／**竹津　　昇**（江別市立大麻東小学校）
『**身辺素材から創造する造形学習**』

ダンボール、包装紙、空き缶などゴミになる運命の材料に子供の思いと手作業をかけさせ、出来たものが捨て難く愛着の持てる物に変えていく。包装紙に描いた『穴の中で』の絵、空き缶や空き瓶と紙粘土で作った『わたしの好きな動物』、ダンボールの『ペーパーシューズ』、余った粘土を利用した『ライフ・マスク』、そして廃品で作った『私の甲冑』。材料や技法の吟味や選択、子供の思いの深まり方と発展性など造形活動の原点を問いかける。

・提言2
提言者／**柏尾　和市**（中標津町立若竹小学校）
『**版画文集の取組を通して、子供達一人一人が自分の良さや可能性を生かし豊かな自己表現を目指す学習活動の指導**』

全校的な取組の版画文集の制作を通して『生き生きと表現する力』、『感動する心』を育てる。その基盤となるものは生き生きと充実した学校生活を送らせること。そして具体的な絵日記や作文指導を通しての表現の基本指導と場の設定（表現の場としての集会）。自分の考えを持たなければ本当に作りたい物は作れない。

〈分科会討議〉

■討議の柱

1．子供に育んでいきたい豊かな心と確かな力につながる基礎・基本をどのように押さえたか。
2．子供の豊かな心と確かな力を育てるため題材をどのようにとらえ開発したか。

1．授業に関する研究協議

（1）授業者から
・題材設定は、今まで自分がやってきた事ではなく、今、子供達は何が必要かという観点で選択した。新しい素材に出会いワクワクしながら作らせたい。石膏にじか付けに決定。これで何が作れるか。サイパンの子供達からとうきびの殻を使った人形が送られてきたことをヒントにこの題材となった。
・ふしぎの国から地図が届いた（このクラスの子供は自由な発想で考えるので、自分で書いて

自分で贈る）ことから制作開始。
・石膏は小学生にとっては初めての教材であるが水の分量や使い方は2回目ですぐに覚えた。心材や服を汚すことを心配したがさほどでもなく、もっと大胆に汚したり、無駄が出ても良かったと思う。
・色を付けて意欲付けを行った。
・評価では相互評価を行うことによって意欲が出ると考えてきた。(顔の工作でカードを用い、学級の他の子の良い所を書き込む方法をとったところ喜んでやった)。

（2）意見交流
・石膏を上手に使っていた。グループで作ると個々人の意欲などは話し合いの中でどのようにしていたか。個人ならもっと違う作品になると思うが。
＊一人一人の思いはグループにすると減退するが、中学年ではグループの話し合いの中でさらに高まるものがある。また、植物、壷、動物と作りたい者同士が集まっている。また、個人制作では大きな作品にはならない。力仕事の得意な子や細かな仕事が得意な子がいてそれぞれ生きていた。
・石膏で前時2時間の指導内容は？
＊芯に石膏を付ける作業で2時間使った。
＊子供は3回目だがあまり荒れた様子は無い。
・石膏の素材のどんなおもしろさを子供に分からせたかったか？
＊粉末が液体になり、時間が経つと固まる。着色も出来るし作品にして飾っておける、石膏は本物であることを分からせたい。また、かたまりを削る、後でくっつけるなど多様な作業ができる。
・いろいろな材料を使わせたい。どろどろが形になり型押しも出来る。動物や壷は石膏でなくても出来るが、石膏でやると一番効果的なものなどを考えさせたい。今日の活動は今後の発展につなげる意味で意義がある。
・4年生の活動としては型に入れて取り出して使う楽しさぐらいかなと思っていたが作れる子はいろいろ考えていた。出来ない子にとっては手の感触を楽しむくらいかなと思う。
＊個々人の場合は差が出来てくる。着色の工夫や固まった物を削るなど多様な力の差が分かる素材でもある。以前の指導要領には石膏もあった。4年生段階ではじか付けは難しい面もあるが型取りなどでは楽しめる。
・子供が意欲的に取り組んでいたのは着色。どれもパステルカラーになり美しく出来たし、容器もボールで工夫されていた。それらが子供の意欲につながっていた。

素材も魅力がありやってみたいが心材の強度や大きな形作りが大変かな。金網も使っていたが子供はうまく出来たか？
＊貰ってきた廃材が大きくて切れずにそのまま使ったので子供の考えとは少し違った。針金は錆びるので使わない予定だったが、とても使い易い物があり子供の手でも十分に出来た。布は堅さによって使い易い物とゴワゴワして使いづらい班があった。

木に小さな穴を空けて針金を埋め込んで行った。発泡スチロールも面白く使える。市販の物はイメージ通りに作れるが、廃材を使うとその通りにはいかない面白さがある。
・昔は白ばかりの石膏作品であったが、着色は子供が何をやりたいかを考えた発想であった。目に粉が入らないことや、手荒れに注意するよう指導が大切だ。粉や水の量など、子供は体で感じ取って覚えていったと思う。
・やり方については自分達の考えでやったのか、先生が教えていったのか？
＊子供の発想でやっていったのはビーズや金網で他の子にも広がっていった。手ではじくのも自分達で覚えやっていった。
・大きな物を作っていたので、手でふりかけた

り、失敗したように思っていたことも、それを模様にしていた。
・大きい作品を作った所は汚しながらやっていた。亀の所は頭と体はバラバラだったがうまくつけられなかったか。
・グループでやったのは良かった。話し合いの中でまとまった時に、どんなふしぎな国から木が来たのか、どんな物をつけることになったのか？
＊アイデアスケッチをして心材をつける時にもう変わってきているのだが、いろいろな形の実がついているとか、火を吹くラッコとかいう感じで子供達の中で変更していった。
・変わっていく時の教師の許容範囲は？
＊大人と違い変わっていくのは仕方がないが、心材を見てそれからまた考えさせた。石膏をかけるとまたイメージが変わったりするので、もっと石膏をかけるよう助言をしていった。
・遅れている班やイメージした形が難しい班にはこれから時間をとるのか？
＊大幅に遅れている班は休み時間や他に時間を保障する。

（3）助言者から
・石膏の授業は不安な面もあるが題材名がとても良く興味を引く。トローリポタポタを期待していたが大胆さは4年生より5・6年生に期待したい。
・共同制作のねらいは力やアイデアを出し合って良い物を作る楽しさにある。何をねらって共同制作にするかを明確にしたい。
・子供達はまだ型のできていない班のみ表情が少なく固い感じがしたが、もう型の出来た班は余裕を持って楽しんで飾り付けをしていった。自分のクラスの子供達は自由に発想させた方が良い作品が出来ると、図工をしっかり指導していることが分かる授業だった。
・中学校でも準備・施設の関係であまり石膏を扱わないが、子供の側にたった観点で指導したのが良かった。
・石膏の扱いが図になっていればもっと良かった。一つの題材で今までに無い何を感じさせるのか、教師の助言で次の題材でどの様に発展していくのかが楽しみである。
・個人制作と共同制作のねらいの違いをはっきりさせたい。また、素材は身近にいっぱいあるが、市販の物を考える前に地域や身近の物に目を向け開発していくと違った表現が出来ると思う。

2．提言に関する研究協議

■『身辺素材から創造する造形学習』
（1）提言者から
・2年…様々な身辺素材を用いて次のような物を作らせた。『穴の中で』、5年…『ライフマスク』（粘土に濡れた新聞紙を貼りで着色、後で粘土を取り除く）・『ペーパーシップ』、6年…『私の甲冑』
・紙の素材を大切にし愛着を持って作らせる。また、作品となってもゴミにしない。ボンド（ソニーボンド、クリヤ）の研究が大切である。
・過去の作品をとっておいて自分のイメージを作らせる。
・現代の子供は指示待ち人間、家庭や学校の指導がそうなってしまっている。子供をつき動かす題材に対する大切な言葉があるはずである。

（2）意見交流
・材料の扱いを児童に教える題材ということと指示待ち人間の関わりについて質問したい。
＊『まず包んでしまおう』とか、『缶や瓶だと粘土が割れる』という風に図解しながら大まかに教える。さらに自分で工夫する点を引き出す言葉によって導き出す。『だれも考えられない穴や動物を考えよう』等、人と違う、考えられ

ない所も着目させる。また、考えられない子供には支援していく。
・作った物は皆リアルだが本物に近い。
＊質感のあるように絵の具の塗り方やラッカーをかけたりして存在感のあるように作る。それが愛着を持つことになる。
・甲は本当にかぶることが出来るが、身近な材料で作って子供達の愛着も変わってきたか。
＊壊れてしまった物や気にくわない物は捨てる子もいるが、何年か前の作品を捨てずに取っている子も多くなってきた。
・リアルな作品を作って教師が満足しているだけでいいのだろうか。素晴らしい甲になり捨てられなくなるのは確かだが、本当にそれでいいのだろうか。結果を見て評価をしてはいないか。
＊動物などを２年生が作るときになかなか形にならないため考えた題材だ。
・履物はそっくりでもいい。校内を歩けるくらいそっくりで満足する。そっくりでなくても工夫している所は認めてあげるといい。
＊発想を生かすというのは宇宙に行くのもいいが、自分の身近な物に目を向けて用途を考えて作る中にもある。何もかも発想を広げていかなくても良い。
・年間計画の中で身近なもので発想を豊かにさせる題材もある。適応表現をバネに自由表現すると素晴らしい力になる。例えば学芸会の道具作りに発揮できたりする。

■『版画学習の取り組みを通して…』
（１）提言者から
・学校は特認校で22人の小規模校である。版画文集は15集目になり、月毎の行事の作文を付け加える。
・朝自習の中で遊び感覚でクロキーをさせ、目につくものはなんでも描かせる。また、造形遊びを取り入れ、手鏡、コップなどを使って光る、反射させることを遊ばしたり、流木からの連想ゲームを行っている。

（２）意見交流
・版画文集で個人目標を続けていってるのは素晴らしい。今まで版画を多色にするなどの校内の考えはあるのか。
＊今までの積み重ねを大切にし発展させていきたい。
・版画文集をみると一人が３ページも取っていて、個人を大切にしていることは学校規模にもよるが出来栄えよりも素晴らしいことだ。

（３）助言者から
・技術（基礎基本）は自由に作る場合にもみんなで同じようにつくる時にも必ず考える問題だ。色彩は良いが構成では弱い等子供の力の違いがある中で、どこでその子の力を発揮させるかが問題だ。達成感や成就感を子供に持たせる事が重要である。自由に発想させる時にも基礎基本の力がないと作品は出来ない。竹津先生のこだわりも大切にしたい。

版画はユニークで素晴らしい取り組みだ。学校体制や施設などの整備も必要である。
・今求められるものは調和よりは変化、新しい学力観の中では視点をもう一つ違った見方をしようと言われている。ピカソは自転車のハンドルとサドルで手を作り非常に興味を持たれた。似ているわけではないが新しい存在感が生まれた時に材料が生きたと言われる。

子供が作りたい物を作る時に、材料を選択する力と組み立てる力を育てていきたい。版画文集は作る教育が年間を通して関わっている様子が良く分かった。作る視点を多く持つことが大切である。

小学校高学年Ａ分科会記録

『絵に表す』

〈発　表〉

・公開授業…６年生
授業者／**平山　一弥**（千歳市立北陽小学校）
題材名**『森の中に入ってみると…』**

日頃から慣れ親しんできた学校周辺の森、その関わりを大切にした詩や物語づくりを行ってきた。日常的に継続してきた人物や樹木の素描で培ってきた観察力や表現力を基礎に、自分で創作したお話を絵に表したのが今回の取り組み、そして今日はお互いの作品を鑑賞する学習。

・提言１／**蓑島　裕二**(江別市立江別第三小学校)
『子供の意欲や関心を引き出す題材づくり』

卒業期を迎えた６年生に『未来の自分』を描かせることによって今の自己をじっくりと見つめさせたい。さらにその絵に表紙やメッセージをつけタイムカプセルのような一冊の本にすることによりさらに思いは深まり個性が盛り込まれ、図工の苦手意識はいつの間にか消えていた。

・提言２／**野島　　操**（増毛町立別刈小学校）
『一人一人が意欲をかきたて、表現する喜びを味わう絵画指導』

奥行きのある絵を描く。絵画制作を２段階にし、まず校庭で自転車をしっかり写生した。それから港に出かけ、自転車の背景にしたい風景を選んで描いた。基礎的な指導を積み重ね、段階を区切った制作に子供達の意欲と集中力は最後まで継続し、子供達は成就感を味わった。

〈分科会協議〉

■討議の柱

1．子供に育んでいきたい豊かな心と確かな力につながる基礎・基本をどのようにおさえたか。
2．子供に豊かな心と確かな力を育むための題材をどのようにとらえ、開発と見直しをしたか。
3．子供達の表現意欲を引き出す手立てをどのように工夫したか。

１．授業に関する研究協議

（１）授業者から
・いつもと異なる場所で多くの人に見学されたので緊張していた。全員発表が出来なかったので後日全員のを鑑賞する予定である。
・この授業に至るまで木のスケッチや切り絵をやってきた。題材名の工夫や基礎・基本としては混色指導や寒色や暖色の指導をしてきている。意欲の面では自分たちの関わりの深い物を表現するということで森との関わりを大切にした。
・自己評価については書かせているので意見を聞かせてほしい。

（２）意見交流
・森との関わりの時間をどのようにつかっているのか？
＊朝、登校時間から朝の会までの30分ぐらい、学級活動の時間や国語の時間なども使っている。

・一人一人の個性が出た絵だ。
＊去年からお話の絵に結構取り組んでいる。混色指導や概念を取り除く指導もした。
・木はどうやって描いたか？
＊木は自分のイメージで描いた。写生をしていない。始めはうすく色をつけて、色を決めてから濃く塗っていった。
・下絵無しで描く方がのびのびとした良い感じが出ている。
＊下絵を無視し、じか描きをしている子もいた。その子の個性によってじか描きでも良い。
・下描き無しに描かせたことはないが…。
・下描き無しだとのびのび描ける。高学年に向けてどんどんやらせるべきだ。
・構想の段階では面白かったのに、大きな画用紙に描くとそうではなくなってしまうので困っている。
＊指示的なことは言わない。良い物は良いと言うようにしている。また、絵を遠くに離して目立つかどうかなどという風に見させている。光がさしている絵を描いた子は、自分で今まで経験したことを生かしている。参考作品を見せて影響されている。
・もっと子供から『この色がいい』という感想があっても良かった。もっと分かりやすい言葉で出し合えるといい。
＊その通りで反省しています。いつもはもっと感想意見が出るのですが…。
・教師は授業で勝負する。素晴らしい作品が出来上がっている。お互いの良さをもっとどんどん出し合うと良いのかな。
・スライドで見た絵は効果的で良かった。効果音も良い。
＊最初はテレビを考えたがビデオだと小さい画面で画質も悪い。それで大きな画面で見るスライドにした。
・鑑賞活動をうまく取り入れている様子なのでそのやり方を教えてほしい。
＊そんなにいつでも見させてはいない。しかし昨年の卒業生の作品等を鑑賞している。遠近感、中心になるものの表現の仕方等が学び取れる。
・模写を高学年でしたことがある。正確に模写した後に鑑賞することがある。子供達は写生は好きだろうか？
＊写生は描こうという意欲が無い時には無理ではないか。
・写生会が時数削減の関係で無くなりつつある。
＊森シリーズでこだわって続けていきたい。
・鑑賞の授業を見せてもらって良かった。鑑賞の評価はどうしたらよいのか？
・図工ノートを持っていて、題材の目当て等について鑑賞したことについて書かせている。
・作品そのものを味わうのと、鑑賞したものを自分の作品に生かすというのと二通りあるが、どちらをねらっているか？
＊最終的には自分の作品に生かしたいという方向で鑑賞させている。金井先生がいい実践をしているので話を聞きたい。先生の言う通りにしていると、先生はニコニコしていると子供達から言われるが、本来ならば子供は自分のしたいようにしたいものである。同じ題材でも個性によって違う。子供達は暑いのによく頑張った。
・主調色がある。白の混色を大切にしているのか？
＊白の混色は大切にしている。白は絶対入れて3色から4色で混色していくように話している。

（3）助言者から
・新しい学校感は我々教師の方がなかなか変わらない。平山先生は例えば光がさしこんでくるところの表現のように子供のこだわりを大切にしているのは、表現することが人に伝達して鑑賞することにつながっているからだ。

・童話を見せ、鑑賞作品を見せることによって表現方法を身につけていった。一見きれいに見えるのではなく、本物に触れさせる森を体感させることが大切である。
・遠近や奥行きについて作品の良さを認め合っていたのが良かった。
・下描きは下描きで意味があるので経験させることが必要。計画性を持たせる点でも大切である。鑑賞は子供のレベルに合わせつつ積み重ねていくとよい。

2．提言に関する研究協議

■『子供の意欲や関心を引き出す題材作り』

（1）提言者から

・昨年6年生を受け持った。作品を大切にしないのでタイムカプセル的な作品として将来もずっと持っているように話した。
・題材を工夫して総合的な作品にした。
・題材との出会いを『未来の自分』、そして目は変化しないので『目から描く』等、新しい切り込み口や見方を考えさせてみた。
＊自分の目だけ写った写真をもらって感想を言う。
＊未来の自分に見せよう。
＊表紙もつけて、手紙や興味あるもの（手紙や写真等）も載せた。
＊歴史上の人物の目を見てその人の生き方が分かる。

■『一人一人が意欲をかき立て、表現する喜びを味わう絵画指導』

（2）提言者から

・蓑島先生の題材は私もぜひやってみたい。
・学校は複式で図工は5・6年生19人でやっている。5年生のほとんどが図工は大嫌いな子供達でアンケート調査の結果により、新しく入ってきた5年生のためにクロッキーから始めた。
・色作りを1時間ほどやった。パレットの使い方が大変悪かった。
・奥行きのある絵を描こう。『自転車をとめて』というテーマで、自分の自転車を交通安全教室で持ってきた時に前景として描かせた。奥行きのある絵についての知識はあった。
・前景は自転車を学校の前庭でマッキー（コンテ、鉛筆もある）ではっきり描いた。パイプの膨らみに気をつけて描いた。
・後景は鉛筆であんまりはっきり描かないで自分で景色を選んで描かせた。地域の人に見て頂く絵だということを話すととても意欲的に取り組んだ。
・前より絵が好きになったという子がいた。4分の1の子供は嫌いだという。細かい作業が嫌で集中して取り組めない。
・今後は楽しく取り組める材料、ブラシや脱脂綿、筆でぼかしていく題材も取り入れたい。
・大きな学校だと前年度以前の参考作品があるので大変うらやましい。

（3）意見交流

・自転車と景色が離れてしまっているがどうしてか？目の高さもあることだし、自転車で海辺に行ってそこに置いて描いた方が良かったのではないか。
＊自転車で画板を持って海に行くのは大変だ。合成写真のようで面白いと思う。
・自転車を止めた場所の背景でもよかったのではないだろうか。
＊自転車の背景は想像でもよいのではないか。
・花を持っていって前景にしてもいいと思った。アルバムのような題材は私もやってみたい。
・二つの物を別々の場所で描くメリットとデメリットこの辺でおしまいにして、野島先生の苦労されたパレットの使い方についてはどうでしょうか？

・パレットの使い方は水の使い方の指導が難しいと思う。使う時には小部屋を水に浸しておいて常に色を置いておく。二つのものを合成するのはどうでしょうね。奥行きの表し方にはもっともっといろいろな方法があります。

空気を表すのは一番難しい。一生懸命にしようとしている様子が手にとるように分かります。支援するためには教師が多くの事を知っていなければならない。

・題材名は子供のテーマや表現力が発揮されるものでなければならない。

・基礎・基本は、人間に関わる大きなものを大切に指導している。チェコは外郭線を細い道具で描かない。不自由なものほど子供は適格な表現をする。じか描きをどんどんやらせている。哲学的なものは不自由なものほど表現力が増す。

・遠近は足元からゆっくり描いていけばよいのではないか。自分で葛藤させながら作品主義から離れて取り組ませていくとよい。先生の考え方をすり込んでいってはいけません。

・写生の題材は20年間変化していない。写生はお寺や神社、室蘭は港だった。森というのは子供達につながりやすい。意欲がすぐに出来て褒められているからダメになると思う。すぐに出来るものについては子供も考えない。言葉に表されないから絵に描くのに、難しくて意欲が出る言葉に無理に表現させている。

・子供に要求と寛容が大切。みんな優しくなって言い合わなくなった。言い合わないから意欲が無い。

・子供を量的につかませるのは低学年から塗り広げる、塗り狭めるをするのが大切です。今後実践すると大変おもしろいですよ。

（4）助言者から

・自転車の絵を見て感じることは、暮らしや生活、生きている姿を追及していく一人一人の生き様が表現の根底にある。子供の描きたいという心情があってそれに密着していくことが大切です。

・蓑島先生は題材を工夫されて、卒業生から『あの作品はどうなっているの？』と言われていることが成功を示していると思う。

・野島先生は避地は恵まれないという点で5年生でもパレットの使い方が出来ていない。これは私も避地にいたのでよく分かる。小人数なので子供達に手をかけ過ぎないように気をつけた方がよい。近隣より学び吸収していくと素晴らしい実践が出来るでしょう。

小学校高学年B分科会記録

『つくりたいものをつくる』

〈発　表〉

・公開授業…5年生
授業者／**村田　勝巳**（千歳市立向陽台小学校）
題材名　**『アルミ缶を使って**
つくろう不思議な世界』
～ぼくたち、わたしたちからの提案～

ふだんからよく手にするアルミ缶を切ったりつぶしたりする中でイメージを広げ、自分の思いのままに違うものに作り変えようという造形活動。初めて扱う金属素材の新鮮さや抵抗感は新しい技術の習得や感動につながっていく。

・提言1／**池田　元治**（江別市立大麻西小学校）
『子どもたちの意欲と
豊かな発想を引き出す手立て』

作り方が良く分からず、制作に見通しを持てずでは子供の意欲も発想もしぼんでしまう。ここでは『クランクをつかって』動くものの制作を通して適切な作品例を示しながら基礎・基本の学びを大切にして『確かな力』育てていく。

・提言2／**添田　好美**（北見市立緑小学校）
『地域素材を使って
意欲的に取り組む造形活動』

与えられることに慣れ過ぎている子供達に、地域素材を生かして主体的に活動をさせたい。校庭の土を採り子供達自身が手を加えて粘土に変え、その自ら作った粘土を使って思いを表現する。直接土に触れる子の体験学習は生きて働く力を育む。

＜分科会討議＞

■討議の柱

1．基礎・基本をどのようにおさえ、育てたらよいか。
2．題材をどのようにとらえ、題材開発をや見直しをどのようにするか。
3．意欲を引き出す手立てや工夫をどのようにしているか。

1．授業に関する研究協議

（1）授業者から

・テーマは決めず、自分の思いを込めてつくらせた。子供達は『楽しい』と言っていた。

・2時間アルミ缶に慣れさせ、切りにくい部分や用具の扱いを体験させた。

・金属は初めて扱い、新鮮さを味わった。

・クリーン作戦に取り組んでおり、ゴミの再利用としてそれを作品化した。

・まず素材に慣れさせること、その上で教師側のアドバイスをしていった。

（2）意見交流

・イメージを膨らませるためにどのような手立てを行ったのか？

＊アイデアスケッチで大まかな絵にしてみた。さらにアルミ缶を自由に切る中でイメージを膨らませていった。

『アルミ缶は金属だよ。金属で血の通った生きている物を作ってみたら？』というアドバイスをした。ただし、アイデアスケッチに必ずしも忠実でなくても良い。作っているうちにどんどん変わっていっても良い。

・毛糸を使っている子がいたが、他の材料はどこまで使ってよかったか？

＊目や毛などのポイントになる部分は使ってよいことにした。

・作業の進まない子がいたが、どう教師は関わったのか？

＊その子は材料がなかった。そこまで気が付かなかったのでよく観察することが必要だと思う。

・花を作ってその台の部分にのせる重りをアルミ片を切って作っていた。1時間一杯その作業をやっていたがそれで満足できたのか？

＊子供は満足していたようだが、子供の思いと教師の支援のあり方が大切である。

・粘土を使ってはどうか？

＊アルミ片を重りにするという発想は子供ならではで素晴らしい。

・ほとんど完成していたので時間を費やすためにアルミ片を切っていたのではないか。

・アルミ缶を切る、曲げるという加工作業が中心であったが、5年生の発達段階を考えると不十分ではないのか。アルミ缶をただくっつけただけという作品が多い。アルミ缶という素材、形からもっと脱却する作品があってよい。

・『生き物』という言葉にもっとこだわっても良かった。『動物園にしよう』とか『アルミ缶に命を吹き込もう』とか、ひとつのテーマを与えることによって子供達のとっかかりも違ってきたのではないか。

＊一つのテーマにするということにすごく悩んだ。しかし、一人一人の子供の思いを大切にしたいと思い、特にテーマを決めなかった。

・アルミ缶を紙やすりでこすった。金属のピカピカが子供達にとっては驚きがある。アルミ缶に慣れさせるための2時間の時に、何か教師側の視点があっても良かったのではないか。アルミ缶の利用法をもっと考えてもよかった。

・素材がイメージを膨らませる。そこに技術的な裏付けや扱いがあってさらにイメージは膨らむ。そこに教師の支援の意味があり、『子供に考えさせる』ということにあまりにも重点をおき過ぎてはいないか。

・技術的な指導と材料の特質という面では教師側はもっと研究を深めていかなければならない問題である。

（3）助言者から

・子供達の反省を見ると、『楽しかった』が多かった。それは自分なりの発想が表現できたからではないか。子供なりにイメージが膨らんでいた。学年の発達段階による構成力という話が出ていたが、十分に構成していたと思う。

・子供の芽を引き出そうとする姿勢が現れていた。支援のあり方で個の理解と雰囲気作りが大切だと思う。

・アルミ缶という素材は切ったり接合したりすることが簡単な素材だ。イメージ→作る→イメージ→作るという過程で行っていたが、先にイメージを持ってそれに合わせて作るのではなく素材に十分慣れさせてからイメージするという方法は良かった。

・題材名は一つに限らなくてもいいのではないか。イメージを広げるためにはもう一つの題材名（副題）があってもよかった。

・一生懸命に作る子供達を見ていて新しい素材に対する喜びを感じ取れた。それぞれの作品にそれぞれの子供達の良さがある。

2．提言に関する研究協議

（1）意見交流

・見通しを持たせてイメージを膨らませると言ったが、子供は実際にやってみないとわからないのではないか。『見通しを持つ』ということはどういうことか？

＊手順が分かる＝見通しを持つということになる。子供達は失敗を繰り返しながら工夫していった。

・『見通しの前に意欲ありき』ではないか？
　これらの実践では一番おいしいところを先生がやっているのではないか。自分で自分だけの粘土を作った方が良い。与えられた物で作るのではなく、調合まで関わらせた方がもっと良いのではないか。

＊限られた時間の中でやるとなると、成就感を味わせるには成功する方をとる方が良い。失敗して、またやってという時間があれば良いが…。

・教材研究はやった方がいい。どこまでが限度なのかということは分からないが、教師側もそういう面の見通しを持った方が良い。

・参考作品を見せるというのは『イメージを膨らませる』ことになるのか、『イメージをしぼませる』ことになるのか。？

＊全く知らない子供に参考作品をみせるとそこからイメージは膨らむのではないか。一見イメージをしぼめているようだが、それは大切なポイントを子供達に気付かせているのではないか。全くの無からの発想はない。

・参考作品を見せることによって、子供達の考えている大事な過程を少なくさせてしまうのではないか。

＊タイミングと場によって見せる、見せないは変わってくる。個によって見せる、見せないの対応をしたらもっと良いと思う。

（2）助言者から

・技法指導はある程度子供達が失敗する中で見つけ出していくものではないか。しかし全く指導しないというのではない。

・地域素材を扱うことで子供達の心の中に深く残るものがあると思う。

小学校中学年A分科会の様子

小学校5年生は「アルミ缶を使ってつくろう不思議な世界」

学年合同授業観察記録

『造形遊び』

題材名『Forest City 2055～緑の惑星に自分たちのまちをつくろう』

千歳市立向陽台小学校４年生167人

授業者／伊賀悦子、奥田信恵、小山寿樹
小森政英、駒場雅子

■取り組みの経過

３年生の時に子供達は体育館に山積みにされたダンボールを使い、グループで宇宙船作りを経験している。学年の子供達全員で宇宙旅行、その壮大なファンタジーに子供達の夢は膨らみ夢中になって創作活動に取り組んだ。

この中で明らかになったことの一つに『場の設定』がある。取り組む人数の多さ、膨大な材料、大きな夢、それらが自然に子供達の意欲をかき立てさらに大きな造形物と感動を生み出す。『造形遊び』の一つの方向性を示す提言として、これを全道のさらに大きな舞台で発表した。

今回の場の設定は『緑の惑星に自分たちの町を作ろう』、飛び立った宇宙船が自分たちの星に辿り着き、町を建設するという壮大なストーリーと取り組みの完結編。午後最初のスケジュールで午前中から猛暑の中子供達は準備と待機をしておりやや疲れ気味、しかし作業が始まると元気良く一斉に森に入り作業を開始した。学年全体の動きは膨大な準備が必要、これを行った学年の先生チーム、そして子供達に大きな拍手を送りたい。炎天の中、森の中にさわやかな風が吹き抜けた。

■授業分析と提示された課題

学年合同授業は分科会を持たないため、ネットワーク部会の各地域の特徴的な取り組みの中で取り上げられ話し合われた。そこで話題になったこととアンケート結果からこの実践の提示したものを大会主題とからめて考察してみた。

・造形遊びは見る観点が変わると評価が大きく変わってくる。そもそもそういう行為なのだと思う。造形という観点から見るとやや展開に見えにくい面があったという指摘がある。しかし造形を通した学年の体験学習としてみると、子供達に様々な克服すべき課題やコミニュケーションがあり、何よりも学年で得た一体感はこの学年の大きな財産となり価値は高い。

・造形として見えにくい要因の一つに、自然林の中の活動であったことが上げられる。体育館の中での造形は他が見え、純粋にダンボールの世界で統一感があり夢の世界を作れた。自然林はやはり現実的で作る物との調和が得にくく大胆自由な発想よりも現実を生かした造形になにより難易度が上がった。あえてそれへの挑戦だったが戸惑いが見えたのも事実である。自然環境をどう生かすかの問題提起は可能性が多く面白い。

・美術の目指す力はイベントを企画する力にも発揮される。企画のほんの一部を専門に任されて得々としているのは目指す人間像ではない。全体と部分のバランスを見ながら選択と決定を重ね大きな営みをデザインしていく、そういうアートの姿が垣間見えて面白い。作った後の撤去に話題が集中したが、確かに作って遊ぶは造形遊びのポイントだがそれが全てではない。現実と向き合いそのバランスの中で壊したり撤去したりすることも造形行為の側面である。大きいがゆえに様々な課題と可能性、そして質までもが変容する興味深い取り組みであった。

小学校４年生167人による「Forest City 2055」

ネットワーク部会では各地区の交流の他、学年合同授業についても話しあわれた。

中学校絵画・彫刻分科会記録

『絵画・彫刻』

〈発　表〉

・公開授業
授業者　**山崎　正明**（千歳市立向陽台中学校）
題材名　**『自己を見つめて（自画像）…自分という人間の存在証明』**

中学校の学習の集大成として自画像を描く絵画かレリーフ（彫刻）かを生徒自らが選択し、（今回の授業では40人中５人がレリーフを選択。）自らが学習計画を立て、取り組む。これまでに基礎・基本がどれだけ身に付いてきたかを問われる題材でもある。

・提言１
提言者　**野口　裕司**（石狩町立石狩中学校）
『自由に発想し、かたちにできるために』

造形学習の本質は自己表現である。「自分」を軸としながら教育課程を編成している。

中学校３年生で本当の自己表現ができるように基礎・基本を押さえながら小さな題材・大きな題材・分野の複合した題材と発展的・有機的に関連付けている。今後はより主体的に取り組めるよう資料・道具を充実させたい。

・提言２
提言者　**佐竹　秀行**
（苫小牧市立苫小牧東中学校）
『想像画指導における発想のてがかりを考える』

豊かな心を育むという視点から「想像画」も大切な題材であると考える。そのときいかに豊かな発想を引き出すか。その一つの具体的な手立てとしてドライポイントに取り組んだ。

これまでの例だと生徒たちはなかなか既成概念をくずせないでいる。最初にイメージトレーニングとしてフォト・コラージュを取り入れた。あわせてマグリットやダリなどの作品鑑賞もしたあと制作に入った。千歳大会の研究に合わせ、基礎・基本を見直した。

〈分科会討議〉

■討議の柱

1、子供に育んでいきたい豊かな心と確かな力につながる基礎・基本をどう押さえたか。
2、子供に豊かな心と確かな力を育むため、題材どのようにをとらえ、開発や見直をしたか。
3、子供達の表現意欲を引き出す手立てをどのように工夫したか。

1、授業に関する研究協議

（1）授業者から

・いつもはもう少し生徒とのやりとりがあるが、今日はどちらかというと教師からという感じが強かった。
・本来はこの授業は卒業直前に卒業制作として取り組むものであるが、研究会のために１学期にもってきている。
・この題材はこれまで絵画で実践してきた。子供の個性を生かしたり、主体的学びを引き出すために画材も選択させた。アクリル・水彩を主体としながら、色鉛筆などの併用・モダンテク

ニックの併用を認めてきた。それを一歩進め、彫刻（レリーフ）も選択肢に入れた。自分という人間を表現することが最終目標である。題材名もそこからきている。
・選択意志決定場面を重視している。制作のプロセスも選択させた。①下描きを完全に仕上げてから進める。②取り敢えず自分を描き、それに描き足していく。③一度描いた絵を壊しながら描いていく。ただし、自分の進度をつかみ、主体的に学ぶ姿勢をつくるために「学習表」を使用している。ただしメモ程度。
・今研究主題の基礎・基本「比べる力」を大切にしているが、手をおいて作品をじっくり見つめるというような場面はまだまだ少ないと思っている。

（2）意見交流

・それぞれの作品が個性的でこれまでの指導が十分行き届いた作品だと思う。子供の個性をどのように引き出したのか？表情の指導はどうしているのか？

＊表現方法が違っているから個性的だというようには押さえていない。個性というより、自分自身の内面の表現が大切ということを最初の鑑賞授業でやる。ワイエスの作品は、彼の言葉もあるので非常に分かりやすい。表情の指導は特にしていない。

・絵画のねらい、彫刻のねらいをどこにおいたのか。

＊自分という人間がこの世に確かに存在しているということを証明するということでねらいは共通。

・作品の評定はどうしているのか。

＊作品の評定については悩んだ。絵画にもレリーフにも共通するのは形（構図も含めて）。違う点は絵画では色彩、彫刻ではレリーフの立体表現である。これらを押さえ評定の観点のひとつとしている。

・先生が一人一人の学習表に言葉を書いているのに感心した。授業の最初では絵画中心であったので、レリーフも取り上げたら良かった。材料費はどうしているのか？

＊確かに今日はレリーフの扱いは少なかったと反省している。教材費は1500円。本来的ではないが毎年少しづつではあるが、イラストボードをストックしている。

・３年生の授業の公開ということで感心した教師の出番が少ないということにも共感。
　これまでの指導はどのようにしてきたのか？また、子供達に絵画や彫刻を選択する力があるのか疑問もある。

＊例えば１年では手をつくることで面と量。２年では人で動勢と空間いうように重点を決め系統的に。また基礎・基本を系統的に扱うことでレタリングで学習したことが絵画や彫刻の学習にも生きるようにしている。また基本的には主題性を大切にしている。
　選択能力があるかということについては、指摘されて考えなければならないことだと思った。実際に選んでよいと言われて、困ってしまう子供もいるでてくるわけだから。

・教科担任の思い入れが感じられる。表現の幅がひろいだけに煮詰まり方が難しい。個性の問題も出てきたが、熱心にやれば自ずと個性が出てくる。

・個性についてどのように考えているかのか定義づけをしてほしい。

＊個性についてつきつめて考えたことはない考えてみなければならないことだと思う。

（3）助言者から

・個性とは何かということを言葉で語るのはは難しい。

今日のような授業では教師の意図を生徒がどのように押さえているかが問題。おなじように評価に関しても教師だけではなく、生徒も押さえていることが大事。

・表現方法の違う物を同時に扱うという題材のとらえ方は、まだやられていない方法である。生徒に選ばせていく大胆な授業である。成果や課題を残しつつも、これからに期待したい。なお、3年間の積み重ねを感じさせる授業であった。

2、提言に関する研究協議

（1）提言者から

①『自由に発想し、かたちにできるために』
授業実践ビデオによる提言

＊生徒が、3年生になって「自由にやりなさい。」と言われたときに、そこで困ってしまうようでは駄目だ。そうならないためにも、3年間の学習の中で身に付けるべき基礎・基本を洗い出し、それがしっかりと身に付くようカリキュラムの編成を行う。編成にあたっては時間をかけるもの・短時間でやるもの・分野の枠を越えた総合的なものというような工夫もしていく。

②『想像画指導における
発想のてがかりを考える』

子供の豊かな創造力を育むためにも想像する力を高めることは重要なことだと思う。

今回は同時に緻密な表現を目指し、ドライポイントとした。いかに子供の発想を広げ、高めていくかということを課題に取り組んだ。

ドライポイントの下絵に入る前に、雑誌を持ち寄りコラージュするところからはじめ、子供の固定観念を破るようにし、発想を広げるようにした。さらに、鑑賞の時間の他、教室の中にダリやマグリットの作品などを掲示しておいた。

（2）意見交流

・自由に発想し、かたちにするということだが、1、2年でどんなことを押さえているのか。

＊1年生のときには小さな題材を多数扱い、豊富な経験をさせながらも、そこで学んだ事を定着させるために複合題材に取り組んでいる。また、継続的にクロッキーに取り組み、描く力もつけるようにしている。

・なぜドライポイントなのか。

＊水彩で描くことに抵抗感を持つ生徒がおり色彩の問題も絡んでくるため、白黒だけで表現できるものとした。そうすることで想像するということに焦点化しやすいということがある。ただ意欲化ということで生徒にとって未体験のドライポイントとした。

・コラージュの反応はどうか。

＊組み合わせや大きさが変わる事で非日常の世界が作られるという意外性・不思議さがあり、楽しんでやっていた。発想は広がった。

・デザインは教えやすい。しかし、絵画・彫刻はねらいをどこに持っていくのかということが難しい。

＊細かな実践上の話し合いも重要ではあるが教科存続の危機にたっているいま、何が重要かを話し合う必要がある。

・指導要領は変わってきたが、造形の心は変わらない。この造形連盟が一貫して取り組んできたことは「見つめる目」「感じる心」「つくりだす手」を育てることである。
教師の願いと子供の思いがぶつかり合わないと良い作品は生まれてこない。

・授業者が大事にしていた水平思考・垂直思考は、授業ではもちろん重要なことである。我々の実践研究の考え方にもあてはまるものだ。過去の研究で、作品を作ることをマーケットで買い物をする事に例えて、フリーマーケット方式として取り組んだことがあるが、これも水平・垂直的な発想による。

・教師が本気になって、豊かな心と確かな力を育みたいのなら、教師自身が豊かな心と確かな力を持って、意欲あふれる指導を続ける事である。千歳大会の研究主題は重要なテーマが示されている。

・美術は人間として大事なものを教えていく教科である。作品をつくるだけではない。そのことが千歳大会の研究主題の中で、具体的に示されている。この研究紀要を、じっくりと読み込んで見ると良い。

3、助言者から

・今日の話し合いを聞いていて、研究が単発ではなく、積み重なってできてきたものだということがしみじみと分かった。

教科性ということでいえば、触れ合いというのが美術の教科ならではないか。教師の投げ掛け、発言、資料の提示の仕方によって、子供が変わる。作品が変わる。大事なことだと思う。

・今回の研究では人間教育ということが一貫して流れている。この人間教育という視点が今の教育でとても大切な視点である。

美術という教科はのめりこむと作家的になる危険性をはらんでいるが、教科性を押さえつつ、教師は今、子供の思いは何か、子供に必要なことは何か、子供にとって価値あることとはといった姿勢で実践していく必要がある。

授業・提言ともに課題もあるが大胆であった。この研究の成果や課題をもとに次の大会へとつなげていきたい。

ネットワーク部会も設立された。このような場での交流を通し、高め合っていきたい。

中学校デザイン分科会記録

『デザイン』

〈発　表〉

・公開授業
授業者　**山田　浩人**（千歳市立青葉中学校）
題材名　**『異次元の世界からのデビュー　ＣＤジャケットの制作』**
…コンピュータによる視覚伝達デザイン

ＣＤジャケットをコンピュータを使用して制作する。未来へのメッセージとして自分を表現することがねらいである。

自分がミュージシャンとしてデビューするという設定でＣＤジャケットを制作。コンピュータだからこそ高めやすい力がある。

２人組ということで相互評価も生かされるようにした。

・提言１
提言者　**宮武　輝久**（江別市立大麻中学校）
『ビデオカメラを利用したパラパラアニメーションの制作』

一枚一枚の原画をビデオでコマ撮りすることでアニメをつくる。完成した作品をテレビで鑑賞するとき、生徒は固唾を飲んで注視する。そして「もう一度見たい。」非常に真剣に取り組む教材である。生徒一人一人の作品がリレーのようにつながり、一つの作品になる。表現技法そのものよりも発想力・構想力を高めるのに良い題材である。アニメ学習では生徒同士が互いに一人一人の発想のおもしろさを感じとり、遊び心を持って楽しみながら学習に取り組むことができる。この題材で大切にした発想・構想の力を２年、３年の学習につなげていくようにしている。

・提言２
提言者　**伊藤　　尚**（札幌市立米里中学校）
『情報を処理する力を高める指導』

美術科の「感性による情報処理」の側面がコンピュータの「電子による情報処理」と出会った今日的意義をおさえ、子供の能力を高めていきたい。具体的には①多数の視覚情報から、自分にとって魅力あるものを選択する力。②多数の視覚情報を幾つかのブロックとして整理蓄積したり引き出したりする力。③多数の視覚情報を秩序立てて他人に分かりやすく提示する力。

数々のグラフィックスを中心とするコンピュータソフトが提起している情報処理のアルゴリズムに注目したい。

〈分科会討議〉

■討議の柱

1、子供に育んでいきたい豊かな心と確かな力につながる基礎・基本をどう押さえたか。
2、子供に豊かな心と確かな力を育むため、題材どのようにをとらえ、開発や見直をしたか。
3、子供達の表現意欲を引き出す手立てをどのように工夫したか。
＊以上の事を踏まえ、
コンピュータや聴覚機器の効果的活用について。

1、授業に関する研究協議

（1）授業者から

＊研究授業ということで、普段使用していない操作卓を使い、若干の操作ミスがあった。
・コンピュータについては思考力・判断力・表現力を育てるためのひとつの道具として押さえている。機能を使うための作品制作ではない。画像や画集をカメラにおさめ、提示する活用方法もある。
・本時の目標では予定10分のところが15分かかってしまった。レイアウトを考えさせるきっかけを持たせるため、導入時に課題を設定した。視線の動き・目立つということで考えさせた。改めて絵柄の重要性に気付かせるために、文字だけのＣＤを見せた。
・パソコンは２年時でハイパーキューブを使用しているのでよほど困らない限り、自力で操作でき、キッドにも無理なく入っていけた。
・パソコンは２人で１台。コンピュータを使っていない生徒が、アイディアスケッチをしていたが、３年生ではアドバイス役とした。相互評価の面で有効である。しかし、まだまだ不十分で相互評価のときに具体的観点を示していく必要を感じている。

（2）意見交流

・私はゲームからはいっていったが、うまくいかなかった。また他の学習ではどのように使っているのか？

＊プリントにアイディアスケッチをさせている。
　根底はすべて手作業があり、最終的にコンピュータを使う。
　コンピュータは何度でもやり直しがきく良さがあるので、生徒には一つでも光るものがあれば良いと言っている。
　発想に重点をおいている。ハイパーキューブでは色相・明度・彩度の差を出す事ができないので、キッドを使っている。

・ハイパーキューブは美術の学習では不都合。キッドのWindows版の方が向いているようだ。

・操作はキューブが簡単だが、スタッフは上と下で保存できるので５分で交換で作業ができる。また評価するにも、すぐ見れることができる。エスキースは水彩タッチやにじみ・砂絵もできるが英語による操作なので生徒向きではない。

・ペインターはペンで描くことができ、絵画に向いている。色は256色しかないが、キューブよりは良い。アートスクールはペンで描くボードを含めて生徒向きで安い。写真を水彩で描いたような表現ができる。スーラタッチやゴッホタッチなどにもできる。

・スーパーペイントを使用している。フォトショップは多機能でリアルな表現ができる。

・コンピュータでＣＤジャケットを制作するという題材を生徒に予告した時の反応はどうだったか。

＊他の題材よりも反応は良かった。しかし、コンピュータの持つ魅力に甘えず、題材名を工夫し、一層の意欲付けをねらった。

・制作過程の評価はどうしているのか？

＊制作過程の評価は学習計画表やアイディアス

ケッチでしている。また調整卓で瞬時に生徒の作品を見ることができる。

・授業では視覚に訴えたという面では弱かったようだが、どう考えているか？

＊教室条件の違いからホワイトボードを使用しなくてはならなかった。普段はＯＨＣを使用している。これは大変有効である。

・なぜＣＤジャケットなのか？

＊音楽に興味がある生徒が多いので、その興味を美術に生かした。またプリンターの印刷能力からいっても手頃な大きさでもある。プリントアウトした物をケースに入れて渡す予定。

・私もＣＤジャケットに取り組もうと思う。今回の授業を参考に自分を主張するということも、要素として取り入れたい。

・コンピュータ室は教育的ではない。授業はやりにくい。コンピュータは生徒にイメージを伝えるのには非常に良い。

（３）助言者から

・授業の中で生徒一人一人がコンピュータを自由に操作していた。その生徒の技術と、そこまでの指導に驚いた。

コンピュータはポスター制作などでも有効に活用できる。

・美術の授業の中で、美術は好きだが、自分の作品に満足のいかない生徒がいる。技術的につまずいている生徒にとって、コンピュータは、それをある程度カバーしてくれる。

今日の授業では、試行錯誤に時間を掛けることができるというコンピュータを使う意義が良く出ていた。

コンピュータを万能と考えるのではないが表現を支援する道具として使える。色に対するセンスを磨く基礎・基本になったりすることもある。

今日の授業のように一人一人にアドバイスするのは良い。教師が送るメッセージはインパクトが強いだけに、それが逆に子供の中に固定的な観念を生み出さないように配慮したい。子供の個性を大切にしたい。

２、提言に関する研究協議

（１）提言者から

①『情報を処理する力を高める指導』

＊テレビなどの情報が氾濫し、目で受ける情報が多い。目で物を見ると細かいところの違いに気付くことができる。美術の先生はコンピュータソフトをつくる人とも協力しないと美術を教える事ができないのではないか。発想・構想の能力は具体的に評価の対象として見えてこない。発想・構想がどのようにでてくるのかが見えない。結果のアイディアスケッチでしか見ることができない。

コンピュータを使わない授業で、どの部分をコンピュータでやることができるかを考えていきたい。

コンピュータを活用する今日的意義をおさえ、子供の能力を高めていきたい。

具体的には①多数の視覚情報から、自分にとって魅力あるものを選択する力。②多数の視覚情報を幾つ化のブロックとして整理蓄積したり引き出したりする力。③多数の視覚情報を秩序立てて他人に分かりやすく提示する力にわけて考えている。

②『ビデオカメラを利用した
パラパラアニメーションの制作』

＊コンピュータに注目しているが、コンピュータを含めた視聴覚機器から論じたい。現在はメディア抜きには美術を語れない時代である。視覚に訴えるということは非常に大きな威力を発揮する。

ビデオカメラなどの視聴覚機器を表現の道具として使って、最終的には自己表現につながるようにしたい。

ビデオカメラによるアニメーションづくりをすると、アニメーションに対する認識が違ってくる。アニメーションは表現技法そのものよりも発想力・構想力を高めるのに良い題材である。生徒同士が互いに一人一人の発想のおもしろさを感じとり、遊び心を持って楽しみながら学習に取り組むことができる。

（2）意見交流

・コンピュータを使う、使わないということは、美術が求める子供に身に付けさせたい力や心から論じられるべきである。

・言葉では伝わらないが、絵だと伝わるということがある。絵は時代や国境など関係なく美しいものは美しいとして伝わる。コンピュータは新しいメディアである。知識や文字文か中心の時代から変わってきている。

コンピュータでは視覚情報を中心に様々な表現が可能であり、授業での資料提示では実に有効な手段である。

コンピュータの可能性はメディアの部分でおおいにある。

・視覚に頼る方法と視覚に頼らない方法を比較して、視覚のあるほうが記憶しているほうが上回っている。しかし、絵を目で見ただけのものは少しずつ忘れてしまう。文字で覚えた事は文字として思い出す事ができる。

コンピュータばかり使いすぎると、コンピュータの情報を受けないことがある。

コンピュータを使い過ぎると生徒もあきる傾向があるので、授業も工夫していかなければならない。

・コンピュータやアニメーションなど子供の興味を引き付けていくことをやっていくことは大切。コンピュータだけでではなく、いろいろな体験を豊富にさせたい。各メディアについて学んでいきたい。

・コンピュータの活用が広がりそうなので参考までに札幌では学期に一度自分たちのレベルに合わせた講習会を実施している。指導者が操作をマスターしていないと、授業の内容も充実できない。コンピュータの活用にあたっては研修の場を保証すること、ソフトの購入などの設備面の充実を図る必要がある。

コンピュータの使用にあたっては中途半端に授業を行うのは良くない。本筋を見極め、授業に望みたい。

中学校工芸分科会記録

『工　芸』

〈発　表〉

・公開授業
授業者　**浜口　秀樹**（千歳市立千歳中学校）
題材名　**『夢中にさせるおもちゃ』**

木材を主体としながら様々な材料の持つ素材の持ち味を生かしながら、小さな子供のための「おもちゃ」をつくる授業である。

ものをつくるということは、人間の本能的な要求であり、喜びである。日常で使える物を制作する事は、生徒にとっても意欲的になる場でもある。

授業では一人一人が自分の計画に沿って、見通しを持ちながら生き生きと制作に取り組んでいた。

・提言１
提言者　**松尾もと子**（江別市立江別第一中学校）
『自己表現を大切にする』

「自己表現」を大切にしたい。そのため表現活動のベースに「自己主張」と「自由な発想」の二つをおいている。あわせて、基礎・基本を押さえながら題材の系統性を重視している。また実際の授業の中では、学習制作表などを活用することによって、見通しをもって制作できるようにしている。またその表が自己評価や相互評価に生かされるようにしている。実践例として寄せ木の技法を使ってイメージを追求するという題材例を発表。

・提言２
提言者　**矢元　政行**（室蘭市立鶴ケ崎中学校）
『生徒の意欲を喚起させる工芸指導』

美術の授業では工芸の分野は何か低迷しているようである。その原因は施設・設備、制作に時間がかかる、専門の教師が少ない、汚れや片付けが大変などがあげられる。しかし生徒の側から見ると実際に生活の中で使えるという工芸に対しては興味や関心が高いといえる。

具体的実践例。作った物をプレゼントするということで目的や動機をより明確化したりＶＴＲで用具の使用をより分かりやすくして意欲化を図った。

〈分科会討議〉

■討議の柱

1、子供に育んでいきたい豊かな心と確かな力につながる基礎・基本をどう押さえたか。
2、子供に豊かな心と確かな力を育むため、題材どのようにをとらえ、開発や見直をしたか。
3、子供達の表現意欲を引き出す手立てをどのように工夫したか。

1、授業に関する研究協議

（1）授業者から

千歳中の生徒は絵画よりも工芸の人気が高い。この３年は、２年時で積層を扱い、硬い物を制作するということに抵抗がない。そこで今回は木を使用し、一歩踏み込み、その他の素材を組み入れた「おもちゃ」をつくることにし

た。

イメージを膨らませるにあたって、スライドやＯＨＰを使用していろいろなおもちゃを見せた。また、昔のおもちゃで遊んだ体験を思い出させた。

自己理解・他者理解の力を育むために、意見交換の場を設定し密にさせた。

材料については、こちらで用意できる物は用意し、その中から選ばせた。足りない物は各自で用意させた。

どちらにせよ子供達に選択意志決定場面を設定することで主体性を引き出したい。

見通しを持って表現できるために制作カードを使用しているが、全部書き込まなくても良い。アイディアスケッチから始める生徒もいれば、材料を手にしながら、考えていく生徒もいるからである。発想の過程でも一人一人の個性を大切にした。

（２）意見交流

・道具の使い方についての指導はどうしたのか？

＊２年生までに基本的な事は指導を終えるようにしている。

・今日は安全面で少々気になったこともあったので、やはり指導が一言必要だったと思う。

・「おもちゃ」はおもしろいが、形態の美しさも必要と思うが？

＊生徒は美しさよりも複雑な動きの方をねらっていた。またオリジナルなものということから、そこで精一杯で美しさの追求までは至っていない面もある。今後の授業の課題としたい。

・３年生は週１時間だと思うが、作品そのものの評定の観点は？

＊本人のねらいに適っているか(カードを参照)・仕上げは（客観的に見れる部分について)・作品の印象などが観点。

・使う素材や進み方がそれぞれ違うので生徒一人一人にかかる時間数に大きな差が出てくると思うが、進度差をどうしているか？

＊実は16時間では終わらないと考えている残りは放課後を使わせている。自発的に残りたいという生徒もいる。そのような雰囲気づくりも大切にしたい。

・時間不足の生徒については放課後美術部の生徒と共に作らせたり、場合よっては家に持ち帰らせる事もある。

・授業中に参考図書を持ってきたが、どのように使わせるのか？

＊資料として本をみせているが、機能については参考にして良いが、形のマネは認めていない。また、その本を参考にすることで使用する材料の幅を広げようということもねらったが、逆に結果としてその参考作品によってイメージが狭められたということも考えられる。工芸に限らず、美術の授業では資料提示の方法は難しいが、提示の仕方によって非常に大きな効果を生み出す。

・工芸で大切にしたいのは子供のイメージをどんどん目標に向かわせることだと思う。

今日の授業では出来合いの物のマネに近かっ物があったり、ゲーム的要素に偏りはしないかという危険を感じたが、先生の要求はどのよう

なものか？

＊工芸であるからには形も色も美しいものをつくってほしいが、今回は機能することに力を入れた。そのため色や形がおろそかになっていいということではないが。まず工作的な感覚で作らせた。もちろん、２年のときの積層のレベルまでは追いつかせたい。

（３）助言者から

・まず子供がやりたいという授業を考えることが大切。この「おもちゃ」という題材は、その点を押さえていた。この授業で評価したいのは自分のつくりたいもので、それがかつ他の人に使ってもらうという他者との関わりがある事。

授業中に使用していたカードが制作の見通しを持てるという面で役に立っていた。

・人間関係がよくできていると感じた。気になる点は、用意してあった材料が丸棒ばかりだったので角材も用意した方がよいということと服装は制服でない方がよいということ。指導案については「題材の目標」ではなく「指導の目標」「学習の目標」と考えるべきではないのか。

３年生の工芸となると計画を立てることが大切で、カードはよい。また、カードを使用することで本時の反省・評価ができ、次時の目標が立てられるようになっているのも良い。

２、提言に関する研究協議

（１）提言者から

①『自己表現を大切にする』

…「寄せ木」による制作

＊寄せ木の良さは、何かに見立てる、何かに使えるなど自由な発想でできるところにある。

子供もこだわりを持って制作に向かっていた。

授業では見通しを持たせたり、相互評価や自己評価を充実させるために進度計画表を使用した。

意欲を引き出すために、工芸的なものにこだわらず形を自由にし、自己決定させた。難しい面もあるが。

②『生徒の意欲を喚起させる工芸指導』

…木彫の指導を通して

＊木彫は長時間やっていると意欲をそぐことがある。そのため、デザインはシンプルに、彫りは単純に、深くなくていいと指導したところ作品を家庭に持ち帰るようになった。仕上げは漆。

鏡だが、これは２年生でつくり、３年生で自画像を描くときに実際に使う。

１・２・３年間通して木彫をしているがそのつど、技法指導をしている。

工芸では、自分が使うもの、自分のためのものという考えが基本ですが、他人にあげるものという考えを取り入れると、より意欲的に作業すると感じる。

（２）意見交流

・自由な発想で形がつくられるということに共感。粘土でやってみたい。

・授業の中で、良いものはみんなに紹介し、評価することも大切にしたい。そうする事で自信を持つようになるのではないか。

・工芸では木の目の出させ方・積層や漆の素材の生かし方などの指導は大切である。

・木彫は私もやっているが、機能・装飾の両面を押さえて指導している。漆は使ったことがないので教えてほしい。

＊自分が額の塗装に使っていた。カタログにかぶれないと書いてあったので使用した。過程はずいぶん省いている。

・数学の教師だが、数学はみんな同じ物ができるが、美術は同じ材料を使っていても違う物ができるというおもしろさを感じた。

・美術科の教師ではないので、自分が中学生の時に一番嫌だったのはアイディアを練る事だった。発想をどのように引き出すのか興味深かった。

＊自由な発想というのは本当に難しいのだが他人の物を取り入れるのも勉強であろうと考えている。苦しんで、楽しんでつくりあげるもの。

＊好きな物を、自由にやらせるというだけではなく、限られたものから広げるという方法もある。好きな物・自由なもの以外にも方法はある。

・限られた中から広げるというのも一つの方法であろうが、視点を変えると、長い時間かけてやるもの、2、3時間でできるものもある。要は題材の組み合わせだと思う。「おもちゃ」はバラエティに富んでいるので、子供の意欲を引き出しやすい。評価は大変であるだろうが。

・いろいろな題材を多数扱う事は、自分の首をしめてしまう。評価をしなくてはならないから。しかし、どこかで評価しやすい題材を選んではいないか…。その反面子供が本気で楽しめる題材を選びたい。難しいことだが。寄せ木にしても長時間かかるし、無駄な時間もでてくるが、無駄な時間の分、美しさも増してくる。

（3）助言者から

・松尾先生の提言から自己主張・自由な発想というこだわりを感じる。賛否両論はあるが貴重な提言だった。

矢元先生の提言から他者から必要にされてつくることは、つくる喜びにつながると感じた他教科の先生からの美術科教師とはまた違う視点から感想をいただけたので参考になった。

・教育の大きな流れの中で個性の重視という点があげられるが、やはり基礎・基本は教えていかなければならない。

ある意味では型にはめ、そこから出てくるのが個性であるともいえる。

美術の教科のおかれている現状を考えると、教師も教科性を押さえ、その良さや必要性をどんどんアピールしていく必要がある。

高等学校分科会記録

『造　形』

〈発　表〉

・提言
提言者　**垂石　幸男**（北海道立千歳高等学校）
題材名　**『「私たちの学校」の設計』**

年々生徒は変化してきている。作り上げていこうとする意志、順序だてて制作していこうとする能力の低下してきている。そして作業スピードが遅くなってきている。過去10年を振り返ると、特に最近の４、５年はそうした傾向が強まっている。

マスメディアの発達により、身の回りにある完成された多くの物や情報を越えて自分を表現することが難しくなってきているのではないか。

ゼロから出発して、自分でイメージして組み立てていく力、要するに抽象的創造能力が落ちてきているのではないか。

このような訓練は美術におけるどの作業をやらせてもよいのだが、興味を強く抱くものとして課題（題材）を考えていかなければならないというところから出発した。

当初、「自分の将来の家の設計」という課題を示したところ、強い制作意欲を示した。
その延長線上として『「私たちの学校」の設計』がある。

千歳高校では改築が近い。この時期にあわせ生徒にとって身近な問題として感じとることのできる題材でもある。未来の理想的な学校として考えることにした。

この課題（題材）では、自分たちのコンセプトを透視図法を使って平面として表現するが、本来であれば立体模型として表現したい。施設・設備の問題が重くのしかかっている。

この題材では導入に多くの時間をかけた。建物の条件付けを設定し、夢の現実に向けて話し合いをさせ、より強い意欲を引き出すようにした。

制作にあたっては、表現に必要な基礎的知識や技法を整理し、プリントなどの資料を使用しながら押さえさせた。

また紙の立体作品・家の設計図・デザインなどの資料を準備することで、アイディアを出しやすいような環境づくりも心掛けた。

この題材は身近な学校ということが何よりも制作意欲をかきたてたと思われる。生徒の中から出てきたGOOD IDEAを実際に採用してみたいという気持ちでいっぱいである。

〈分科会討議〉

■討議の柱

興味・意欲のもてる題材づくりについて

1、研究協議

・提言にあったように、何もないところから何かを生み出すということに対しては集中力が続かないという現状がある。そういう意味で身近な問題としての自分の学校の設計は生徒の興味や意欲を引き出すために効果的である事が分かった。その他に生徒の興味を引き出す題材の視点として抵抗感が強すぎるものではなく、生徒の実態に応じた気軽に入っていけるようなものや、完成への見通しを持ちやすい題材が考えられる。

・実践例としては「模写」がある。「模写」を課題として制作への動機づけとしている。「模

写」は、できたという達成感を生み出しやすく、この達成感が次への制作意欲につながっていく。この模写を通して構図や混色といった表現上の基礎・基本についても、十分学ぶ事ができる。作品が完成したときの「できた！」という体験は大事にしたい。

・制作を終え、作品が完成することで成就感をつかむ。これが一つのステップを確実につくっていくことになる。

・模写は生徒にとって「似せる」ということで到達の目標がはっきりと分かる。この「似せる」という行為を通して、造形的な基礎・基本を身に付けていくこともひとつの方法である。

「似せる」ということで生徒の意欲を引き出しながら、創造し、表現することへとつなげていけるように題材の配列などを工夫していけば良い。

・生徒の質によっては、作品をせっかく完成させながらもその時点での満足で終わってしまい、次への制作に対する意欲のステップにならないことがある。

・高校では生徒の質の違いは大きいので、実践交流でも難しさを感じる事もある。しかし逆にそういう状況だからこそ、どんな生徒であっても共通する重要なものも見えてくることもある。今回の話し合いで決めた討議の柱などは生徒の質は違っていても、高校に共通する課題ともいえる。

・生徒に題材を提示するときに制作の「ねらい」を明確化することが重要だと思う。具体的には到達目標を評価の観点として生徒に示すということをしている。

・作品完成時に「合評会」を実施している。これは「鑑賞」の授業と兼ねてもいる。

「合評会」では、生徒が作品に対する感想や意見を述べ、その後、投票という形を取っている。発言・発表する事を通して、制作の中でつかみ取ったことを再度見直し、学んだ事を理論化することができる。また鑑賞の態度も身についていくし、物の見方や感じ方が広がり、深まるという良さがある。

2、まとめ

現代の社会はマスメディアの発達もあり、身の回りには豊富なモノ（完成品）があり、表現の必然性が弱まっているのかもしれない。制作への根気や集中力が年々弱まってきているのはこのような受け身的な生活によるところもあるのではないか。このような現状を押さえて題材づくりをしていく必要がある。

「題材づくり」にあたっては研究に示された基礎・基本を押さえることはもちろんであるが、特に生徒が興味や意欲を持てる題材づくりが先決である。たとえば次のような視点が考えられる。

・適切な抵抗感を持った題材。
・身近な生活に直接関わる題材。
・完成への見通しが持てること。
・制作を振り返り、表現の価値を再発させる。

千歳大会を終えて

大会実行委員長　宮川誠一

石狩では第25回江別大会以降、20年ぶりに2回目にあたる千歳大会を開催し、私たちの予想を上回る多数の参加者と晴天に恵まれた中で盛況のうちに終了させることが出来ました。

大会運営に協力下さいました関係する多くの方々、並びに遠路ご参加いただきました皆様に対し心より厚く御礼申し上げます。

ご存じの通り、石狩管内は道央圏にあって現在3市3町3村と南北の広域に位置し、人口の増加する発展途上地帯です。明年度は広島町及び石狩町が市制執行を予定して準備を進めており躍進を遂げているところです。札幌市に隣接するだけに人の出入や交流も活発で諸研究関係の大会や会議等も頻繁に開催され、参加しやすい状況に恵まれているように思われます。しかし、反面それぞれの規模で組織する大会や事業等を自分らの中から起こす機会をつくり出していかなくても事足りる一面をもっていることも確かです。

そうした状況を踏まえ、自分らの主体的な盛り上げによって本当に手づくりの全道大会を生み出すことを願って結集を図り、開催をめざした千歳大会だったと思います。これまで開催を決定するまでに約3年、決定後準備活動期間として3年余の丸6年を要しました。

母胎であります石狩管内教育研究会図美部会の研究を基盤に深化・発展・創造へと高め、それぞれのつながりをもつ中でメンバーの豊かな心と確かな力を育む過程を経ながら石狩の造形仲間が最大限に結集できたものであったと内心自負し、かつ仲間の皆さんに本当に感謝している次第であります。全道大会を生み出すエネルギーは膨大なものですが、それによって研究活動を活発にさせ、多くの成果を残してくれました。

こうして学んだ貴重な財産を今後、石狩の図工・美術教育の底力として参りたいと考えます。大会運営の細部につきましては多々不備な点があった事は重々承知致すところでありお詫び申し上げます。

多くの関係の皆様の絶大なるご指導・ご支援で無事大会を成功させていただきましたことに深く感謝し、結びのごあいさつと致します。

第45回　全道造形教育研究大会
いしかり'95千歳大会

研　究　集　録

平成８年３月　発行

発　行　いしかり'95千歳大会実行委員会
運営委員長　和　田　　弘
実行委員長　宮　川　誠　一

編　集　大会実行委員会事務局　吉田英夫

印　刷　㈲松浦印刷　千歳市栄町４丁目
☎0123－23－2628